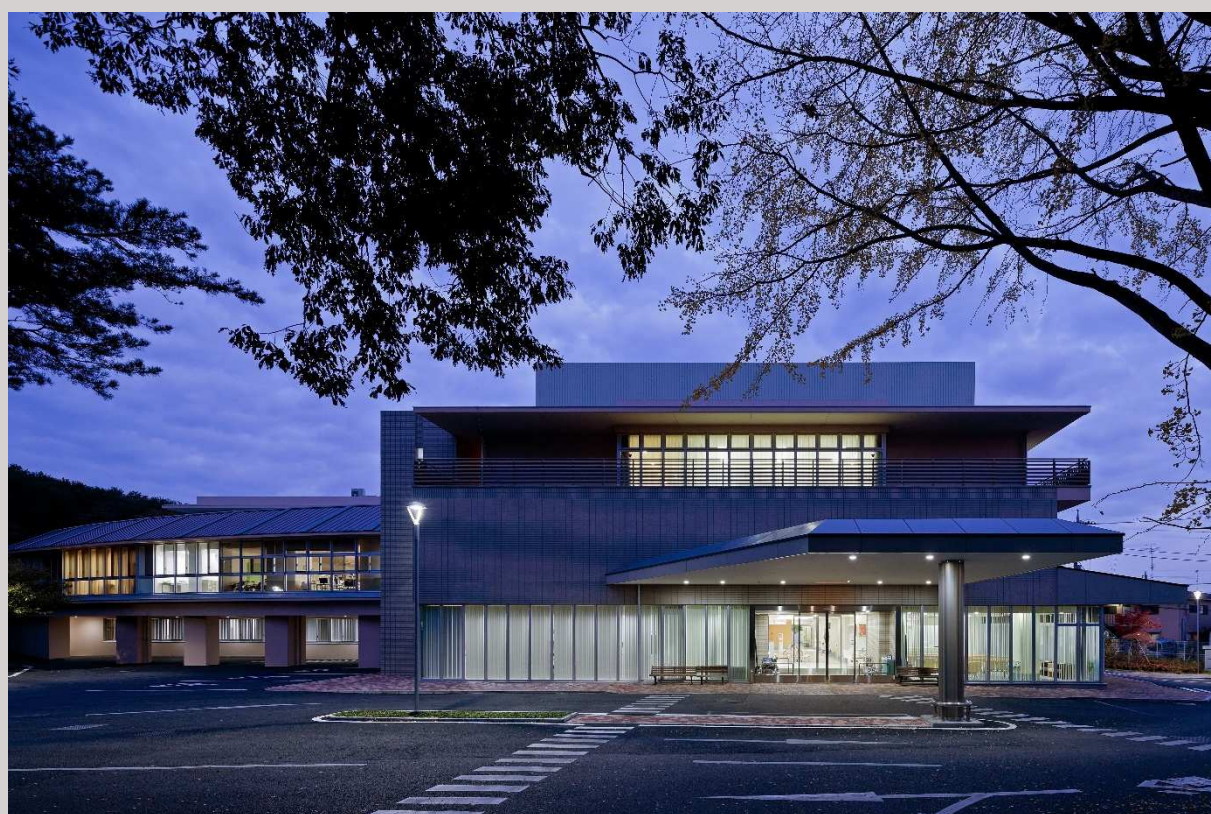




令和 2 年度

病 院 診 療 年 報



公益財団法人結核予防会

し ん や ま の て

新 山 手 病 院

目 次

※文中の役職名は令和2年度時点のものとなっております。

I	はじめに	1
II	患者数の動向	
1.	診療科目別外来患者数	3
2.	病棟別入院患者数	6
3.	男女別年齢別入院患者数	7
4.	在院日数	8
5.	地域別入院患者数	9
6.	患者入院ルート	10
7.	年別入院患者疾患別数	11
8.	疾患別入院患者数	
	呼吸器系	12
	消化器系	14
	循環器系	16
	内科	18
	外科	19
	泌尿器科	20
	歯科口腔外科	21
	整形外科	22
9.	外来化学療法受療患者数	24
III	診療部門の動向	
1.	消化器科	25
2.	整形外科	27
3.	胸部外科	29
4.	泌尿器科	31
5.	歯科口腔外科センター	33
6.	循環器病センター	35
7.	生活習慣病センター	36
8.	放射線治療センター	39

IV	検査部門の動向	
1.	放射線技術科	44
2.	検査科	45
3.	内視鏡検査件数	46
V	リハビリテーション科	47
VI	薬局取扱い数	48
VII	人間ドックの利用者数	49
VIII	栄養管理	50
IX	臨床工学科	53
X	地域医療連携	55
XI	新山手訪問看護ステーション	56
XII	看護部の活動	57
XIII	死因別死亡例	62
XIV	安全管理室	63
XV	感染対策室	65
XVI	病院の組織と構成	67
XVII	介護老人保健施設「保生の森」運営の概要	70
XVIII	居宅介護支援センター「保生の森」運営の概要	71
XIX	サービス付き高齢者住宅「グリーネスハイム新山手」運営の概要	71

I. はじめに

令和2年度の新山手病院の病院診療年報をお届けします。

令和2年度は、令和元年12月に中国武漢で発生が確認され、令和2年1月15日に日本国内においてもはじめて感染が報じられた新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響を強く受ける1年となりました。令和2年1月31日には新型コロナウイルス感染症が感染症法の指定感染症、検疫法の検疫感染症に指定され、医療機関においては患者の厳重な隔離が必要となりましたが、これが病院運営上の大きな制約因子となりました。

当院は感染症病床を有する感染症指定医療機関に登録されていましたが、これは平成24年に発生した新型インフルエンザ対策の一環として認定されていたものでした。しかし、認定を受けた病床はすでに本館建替によって失われており、新しい本館は、感染者用の独立した搬入ルートは確保されていません。また、陰圧室も前室を備えない1床が準備されているのみで、新型コロナ患者を受け入れるのは殆ど不可能な構造となっています。そのため、令和2年4月から始まった第1波の感染拡大に際しては、結核病床8床をすべて閉鎖して新型コロナウイルス感染症病床に転用し、患者の収容に備えました。しかしながら、新型コロナ患者の入院依頼は1件に留まる一方で、結核患者の収容依頼や急性期手術の対応依頼が殺到する結果となりました。そこで、当院としては、新型コロナウイルス感染症については **post acute** に専念し、コロナ対応のために一般診療が制限された基幹病院の一般診療や結核治療を引き受ける方針に転換して、結核病床は本来の目的に戻しました。その結果、結核患者の受け入れ要請は地域の枠を超えて遠方からも寄せられ、令和2年度は、殆どの期間で結核病床は満床となりました。また、防衛医科大学校病院をはじめとするコロナ対応医療機関で実施困難となった手術も積極的に受け入れた結果、年間手術件数もはじめて1000件を超える1053件に達しました。言わば地域の枠を超えた医療が展開された1年であったとも言えます。

その一方で、外来診療は新型コロナの感染状況の影響を強く受けました。遠隔診療や長期処方を実施した影響もありますが、感染第1波のピークが見られた令和2年5月には、1日平均外来患者数は223名/日まで低下しました。これは令和元年度の平均患者数である335名/日の67%に相当します。とくに呼吸器内科、整形外科では外来数の減少が目立ちました。その一方で、消化器外科や循環器内科への影響は比較的軽微でした。また、新型コロナ患者の入院に備えて空床を確保したことや、感染ピーク時の受診抑制などが影響し、病床利用率も74.2%と、令和元年度に比較して5%以上低下しました。しかし、年度を通じて、1件の院内感染もみなかったのは、ICTを中心とする職員の尽力の結果と考えています。

残念ながら、令和2年度内には新型コロナウイルスによるパンデミックは終息を見ませんでした。令和3年度にかけて、波状的に感染のピークが襲来する状況が続いていますが、

大規模病院の多くが 2 次救急、3 次救急を休止し、新型コロナ患者収容に専念するため、当院のように急性期機能の維持を最優先している病院には、遠方からの救急要請が殺到する状況が現出しています。引き続き当院の果たすべき役割を自覚し、何に注力すべきかを弁えた上で、引き続き危機下にある医療ネットワークへ貢献することを目指していきたいと考えています。

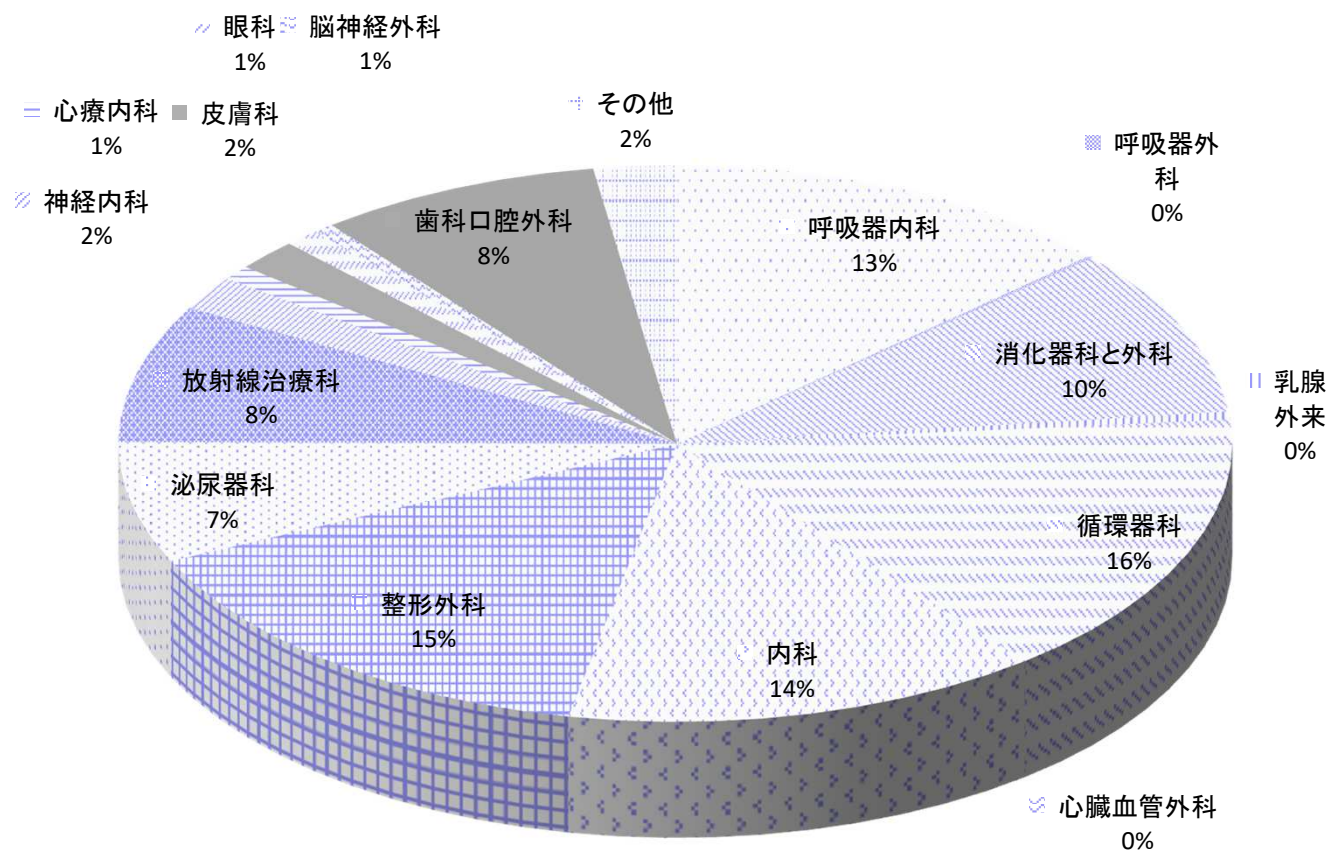
院長 横倉 聡

Ⅱ 患者数の動向

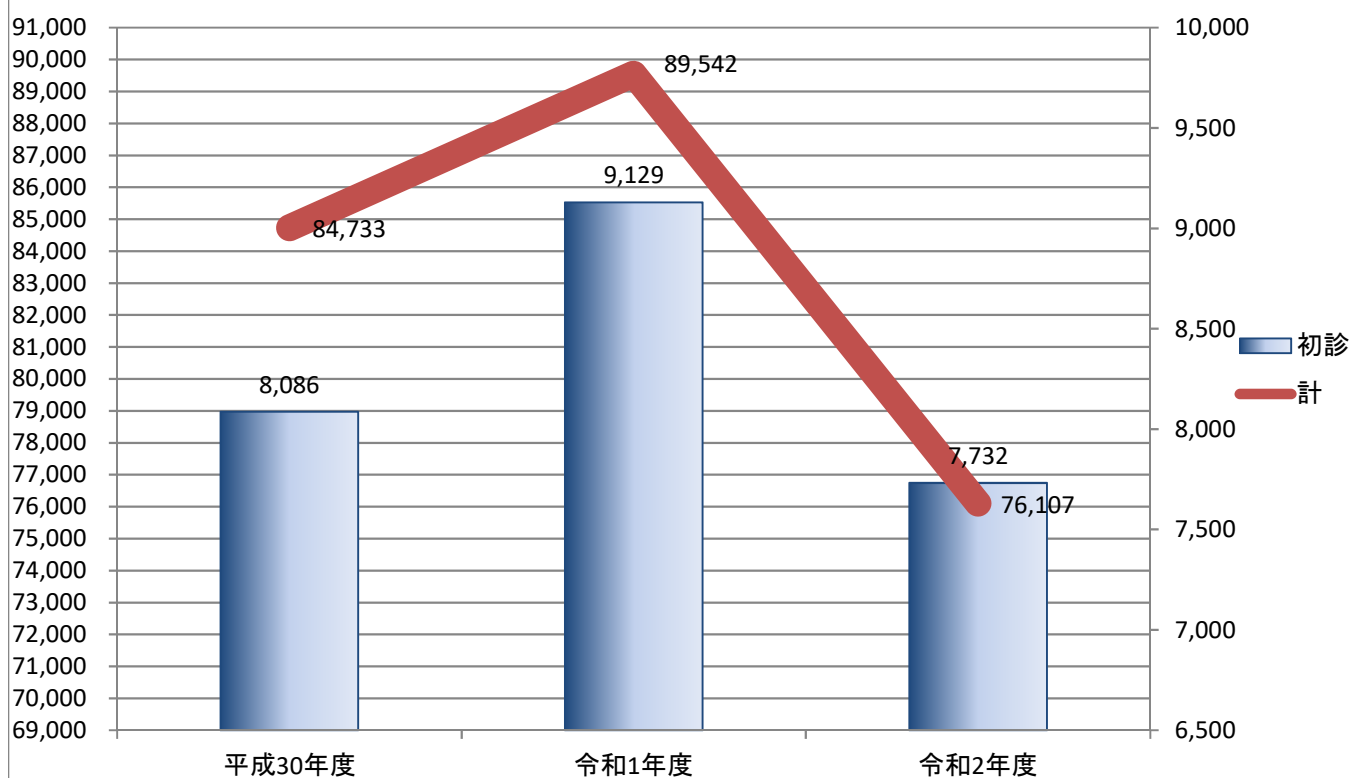
1. 診療科目別外来患者数

区分 \ 年次		平成30年度	令和1年度	令和2年度
呼吸器内科	初診	1,022	1,137	928
	計	11,012	11,207	10,051
呼吸器外科	初診	246	165	30
	計	2,320	1,468	114
消化器科と外科	初診	902	1,031	891
	計	8,553	7,811	7,448
乳腺外来	初診	50	74	71
	計	325	421	357
循環器科	初診	758	911	753
	計	12,073	12,859	11,933
心臓血管外科	初診	4	1	0
	計	4	1	0
内科	初診	663	744	604
	計	6,623	11,081	10,515
整形外科	初診	1,073	1,521	1,319
	計	9,854	14,124	11,354
泌尿器科	初診	451	567	550
	計	5,087	5,731	5,387
放射線治療科	初診	190	135	102
	計	7,075	6,637	6,102
神経内科	初診	5	6	9
	計	1,729	1,665	1,505
心療内科	初診	6	7	8
	計	695	720	650
禁煙外来	初診	0	0	0
	計	0	0	0
皮膚科	初診	188	187	108
	計	2,350	2,024	1,386
眼科	初診	34	44	37
	計	864	908	775
東洋医学科	初診	0	0	0
	計	0	0	0
脳神経外科	初診	59	66	47
	計	638	556	453
歯科口腔外科	初診	2,253	2,530	2,274
	計	6,468	7,188	6,250
その他	初診	152	3	1
	計	5,013	5,141	1,827
合計	初診	8,086	9,129	7,732
	計	84,733	89,542	76,107

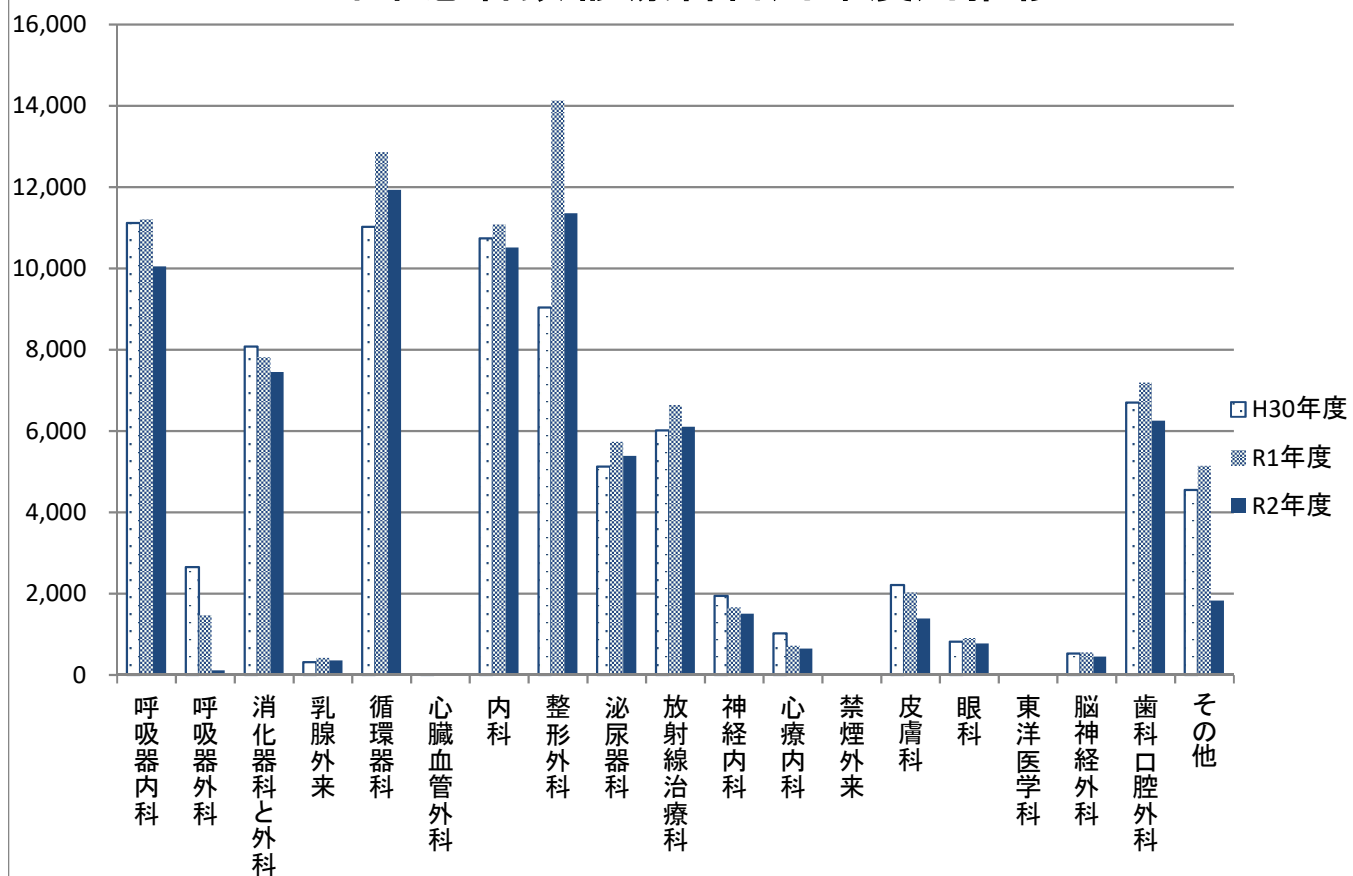
外来患者数 診療科目別構成比(令和2年度)



外来患者数・新患数 年度別推移



外来患者数 診療科目別年度別推移



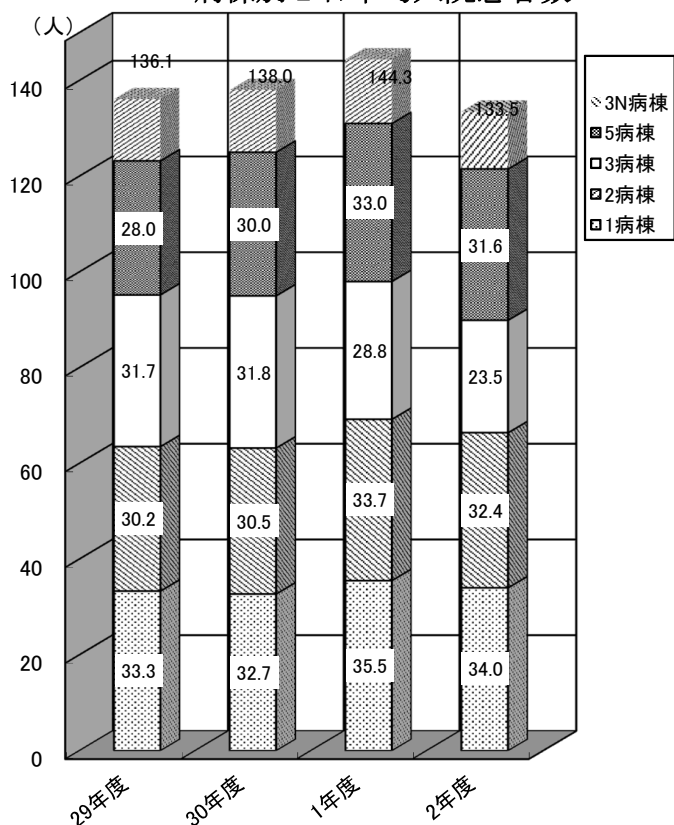
2. 病棟別入院患者数

区 分		定床	29 年 度					30 年 度				
病 棟	診療科目		入院	退院	延患者数	1 日平均	平均在院日数	入院	退院	延患者数	1 日平均	平均在院日数
1 病棟	内 科	49	678	646	12,168	33.3	17.4	730	728	11,935	32.7	17.4
2 病棟	消化器科 外 科	48	728	699	11,033	30.2	14.5	823	817	11,150	30.5	14.5
3 病棟	呼吸器科	40	436	451	11,567	31.7	25.1	516	513	11,595	31.8	25.1
5 病棟	循環器科 心臓血管外科	43	840	769	10,212	28.0	11.7	870	864	10,935	30.0	11.7
3 N 病棟		16	13	139	4,720	12.9	60.3	3	179	4,740	13.0	60.3
合 計		180	2,695	2,704	49,700	136.2	17.8	2,942	3,101	50,355	138.0	17.8

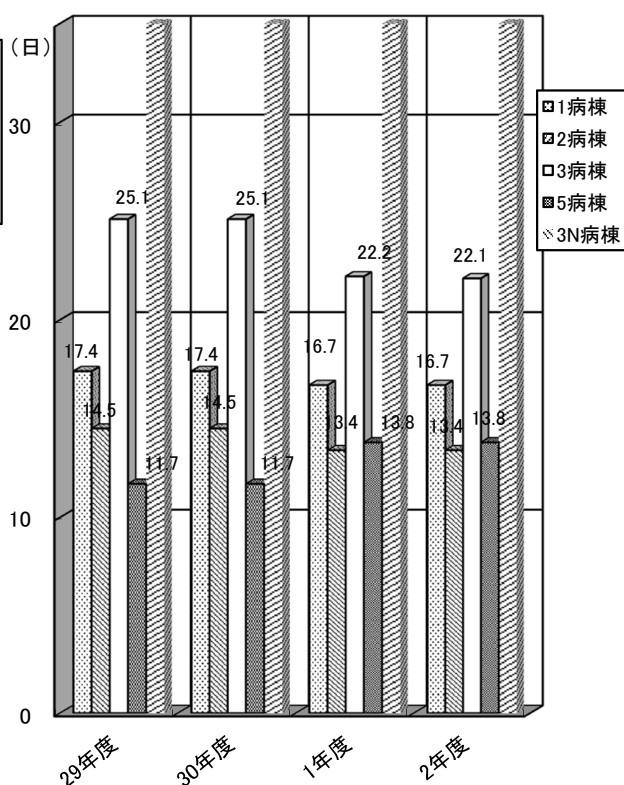
区 分		定床	1 年 度					2 年 度				
病 棟	診療科目		入院	退院	延患者数	1 日平均	平均在院日数	入院	退院	延患者数	1 日平均	平均在院日数
1 病棟	内 科	44	679	620	12,940	35.5	16.7	658	717	12,406	34.0	16.7
2 病棟	消化器科 外 科	42	866	850	12,295	33.7	13.4	854	792	11,833	32.4	13.4
3 病棟	呼吸器科	40	362	488	10,508	28.8	22.2	384	373	8,594	23.5	22.1
5 病棟	循環器科 心臓血管外科	38	840	796	12,041	33.0	13.8	831	730	11,516	31.6	13.8
3 N 病棟		16	133	144	4,893	13.4	71.8	3	117	4,388	12.0	71.2
合 計		180	2,880	2,898	52,677	144.3	17.8	2,730	2,729	48,737	133.5	16.8

※一般172床、結核8床。25年11月より3 N病棟開始及び他病棟病床数減少。

病棟別 1 日平均入院患者数



病棟別平均在院日数



3. 男女別年齢別入院患者数

年齢	男	女	計	比率
19歳以下	12	9	21	0.8%
20～59歳	260	152	412	15.1%
60～65歳	95	100	195	7.1%
66～69歳	100	133	233	8.5%
70歳以上	930	939	1869	68.5%
計	1,397	1,333	2,730	100.0%

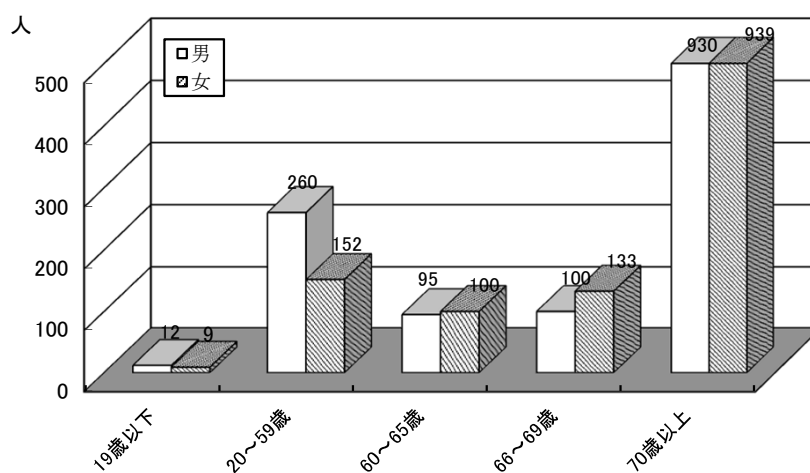
合 計

年齢	19歳以下	20～59歳	60～65歳	66～69歳	70歳以上	計
男	12	260	95	100	930	1,397
女	9	152	100	133	939	1,333
計	21	412	195	233	1,869	2,730

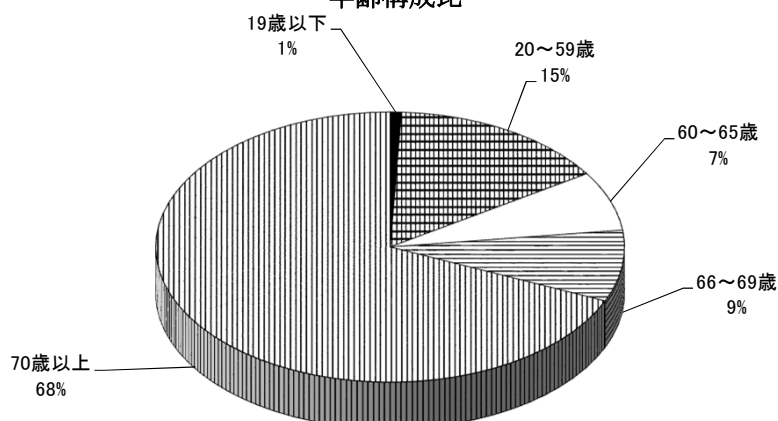
構成比 (%)

年齢	19歳以下	20～59歳	60～65歳	66～69歳	70歳以上	計
男	0.9%	18.6%	6.8%	7.2%	66.6%	100.0%
女	0.7%	11.4%	7.5%	10.0%	70.4%	100.0%
計	0.8%	15.1%	7.1%	8.5%	68.5%	100.0%

年齢別入院患者数



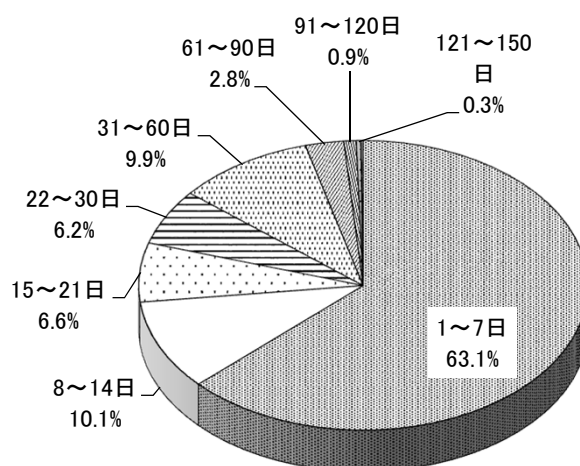
年齢構成比



4. 在院日数

在 院 日 数	件数	%
1 ～ 7 日	1,917	63.1
8 ～ 14 日	306	10.1
15 ～ 21 日	200	6.6
22 ～ 30 日	189	6.2
31 ～ 60 日	300	9.9
61 ～ 90 日	84	2.8
91 ～ 120 日	27	0.9
121 ～ 150 日	10	0.3
151 ～ 180 日	1	0.0
181 ～ 212 日	4	0.1
合 計	3,038	100

在院日数別構成比

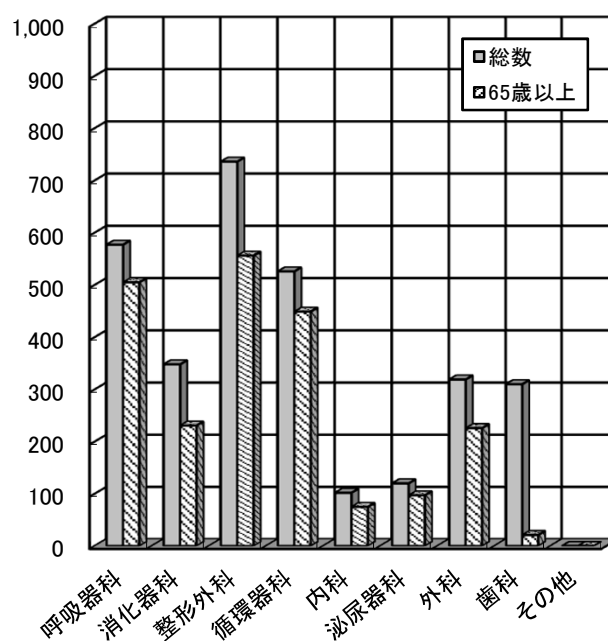


各科入院数と65歳以上の対比

人

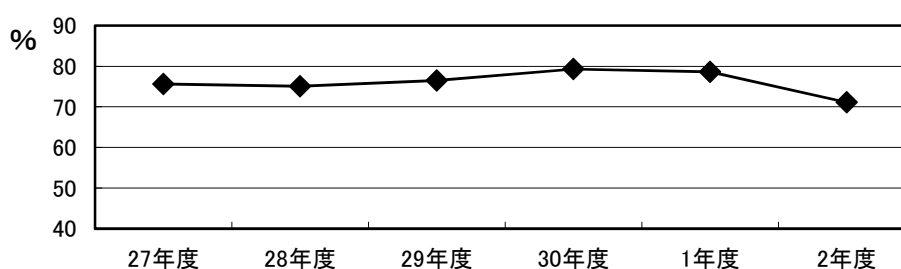
各科入院に占める65歳以上の比率

診療科目	総数	65歳以上	%
呼吸器科	577	505	87.5
消化器科	348	231	66.4
整形外科	736	556	75.5
循環器科	526	449	85.4
内科	102	75	73.5
泌尿器科	120	97	80.8
外科	319	226	70.8
歯科	310	21	6.8
その他	0	0	0.0
合計	3,038	2,160	71.1



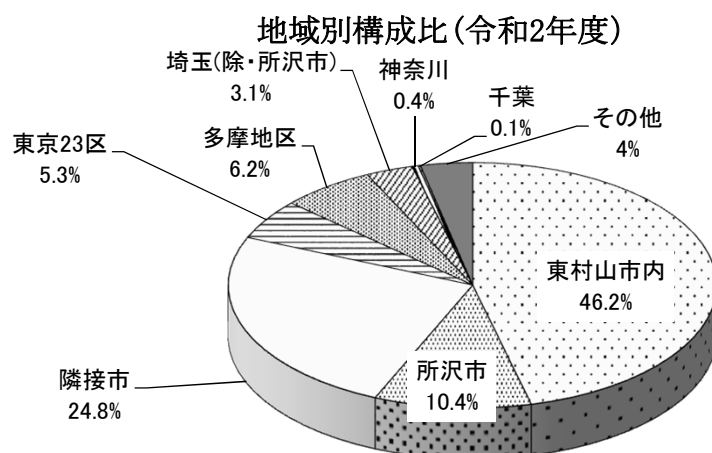
65歳以上の比率の年別推移

年度	27年度	28年度	29年度	30年度	1年度	2年度
%	75.6	75.1	76.5	79.3	78.6	71.1

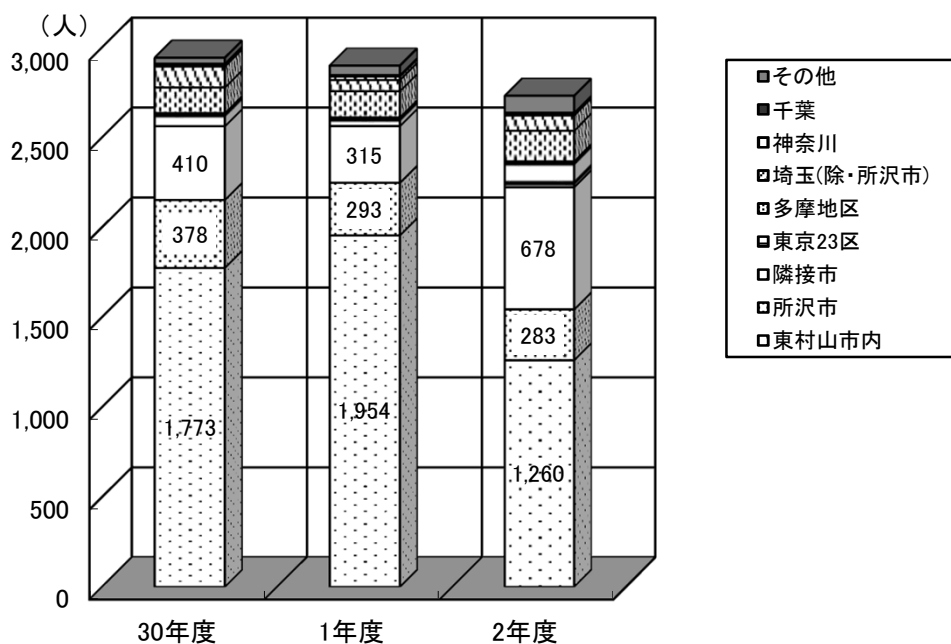


5. 地域別入院患者数

地域	30年度		1年度		2年度	
	人数	%	人数	%	人数	%
東村山市内	1,773	64.9	1,954	71.6	1,260	46.2
所沢市	378	13.8	293	10.7	283	10.4
隣接市	410	15.0	315	11.5	678	24.8
東京23区	73	2.7	48	1.8	145	5.3
多摩地区	142	5.2	146	5.3	170	6.2
埼玉(除・所沢市)	117	4.3	62	2.3	85	3.1
神奈川	6	0.2	19	0.7	11	0.4
千葉	9	0.3	8	0.3	4	0.1
その他	34	1.2	53	1.9	94	3.4
計	2,942	107.6	2,898	106.1	2,730	99.9



地域別入院患者数 年度別推移



6. 患者入院ルート(紹介状)

	28年度		29年度		30年度		R1年度		R2年度	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
当院外来	2,015	76.4%	1,941	71.8%	1,942	70.5%	1,941	67.0%	1,781	65.3%
第一健康相談所	13	0.5%	11	0.4%	16	0.6%	7	0.2%	6	0.2%
複十字病院	66	2.5%	69	2.6%	55	2.0%	43	1.5%	43	1.6%
保生の森	3	0.1%	2	0.1%	0	0.0%	1	0.0%	0	0.0%
医院・診療所	237	9.0%	409	15.1%	429	15.6%	591	20.4%	522	19.1%
病院・大学	289	11.0%	265	9.8%	284	10.3%	301	10.4%	362	13.3%
その他(施設)	16	0.6%	7	0.3%	28	1.0%	14	0.5%	13	0.5%
計	2,639	100.0%	2,704	100.0%	2,754	100.0%	2,898	100.0%	2,727	100.0%

7. 年別入院患者疾患別数

	28年度		29年度		30年度		R1年度		R2年度	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
結核症	26	1.0%	39	1.4%	35	1.3%	31	1.1%	39	1.4%
呼吸器系疾患	677	25.7%	513	19.0%	508	18.4%	447	15.4%	418	15.3%
消化器系疾患	517	19.6%	566	20.9%	602	21.9%	530	18.3%	533	19.5%
循環器系疾患	638	24.2%	584	21.6%	531	19.3%	505	17.4%	493	18.1%
整形外科疾患	284	10.8%	444	16.4%	498	18.1%	640	22.1%	580	21.3%
泌尿器科疾患	89	3.4%	139	5.1%	125	4.5%	149	5.1%	126	4.6%
内科	146	5.5%	219	8.1%	193	7.0%	201	6.9%	156	5.7%
外科	71	2.7%	36	1.3%	34	1.2%	115	4.0%	120	4.4%
口腔外科疾患	184	7.0%	164	6.1%	228	8.3%	280	9.7%	262	9.6%
その他	7	0.3%								
合計	2,639	100.0%	2,704	100.0%	2,754	100.0%	2,898	100.0%	2,727	100.0%

8. 疾患別入院患者数

	疾患	件数
呼吸器系	結核	肺結核
		37
		脊椎結核
		1
		粟粒結核
		1
	その他の細菌性疾患	肺非結核性抗酸菌症
		5
		A群連鎖球菌敗血症
		1
	ウイルス感染症	EBウイルス伝染性単核症
		1
		コロナウイルス感染症
		4
	悪性新生物	肺癌
		77
		悪性胸膜中皮腫
		2
		転移性肺腫瘍
		4
	急性上気道感染症	癌性胸膜炎・癌性胸水
		7
		成人T細胞白血病リンパ腫
		1
		急性白血病
		1
	インフルエンザおよび肺炎	急性喉頭蓋炎
		1
		肺炎球菌肺炎
		2
		肺炎桿菌肺炎
		2
		緑膿菌肺炎
		2
	その他の急性下気道感染症	ステプトコッカス・マルティリ肺炎
		1
		細菌性肺炎
		9
		気管支肺炎
		14
		大葉性肺炎
		14
	慢性下気道疾患	肺炎・急性肺炎・非定型肺炎
		21
		急性気管支炎・気管支炎
	外因による肺疾患	3
		肺気腫
		1
	慢性下気道疾患	慢性閉塞性肺疾患
		15
		気管支喘息
		7
	外因による肺疾患	気管支拡張症
		2
		誤嚥性肺炎
		57
	外因による肺疾患	薬剤性間質性肺炎
		2

	疾患		件数
呼吸器系	主として間質を障害する その他の呼吸器疾患	急性好酸球性肺炎	2
		急性間質性肺炎	9
		特発性器質化肺炎	9
		通常型間質性肺炎	2
		特発性肺線維症	10
		特発性間質性肺炎	7
		非特異性間質性肺炎	2
		間質性肺炎	24
	下気道の化膿性病態	肺化膿症	3
		膿胸	12
	胸膜のその他の疾患	胸水貯留	4
		細菌性胸膜炎	2
		気胸	19
		縦隔気腫	1
	呼吸不全	急性呼吸不全	2
		慢性呼吸不全急性増悪	17
		慢性2型呼吸不全	6
		2型呼吸不全	4
		呼吸不全	1
	全身性結合組織障害	多発血管炎性肉芽腫症	2
		顕微鏡的多発血管炎	1
		ANCA関連血管炎	5
		多発性筋炎	1
	呼吸器のその他の疾患	喀血	1
		肺出血	4
		胸痛	1
		喀痰喀出困難	1
		発熱	5
		熱中症	4
		アレルギー性浮腫	1
	計		457

	疾患		件数
消化器系	悪性新生物	食道癌	9
		胃癌	27
		十二指腸癌	1
		大腸癌・結腸癌	44
		直腸癌	25
		肛門管癌	1
		肝癌・肝内胆管癌	4
		胆嚢癌・胆管癌	10
		膵癌	9
		KIT(CD117)陽性消化管間質腫瘍	1
		腹膜播種・癌性腹水	2
		転移性肝腫瘍	7
		転移性膵腫瘍	1
		原発不明癌	2
		癌性貧血	1
	良性新生物	胆のう腺筋腫症	1
	性状不詳の新生物	虫垂腫瘍	2
		盲腸腫瘍	1
		直腸腫瘍	1
	腸管感染症	偽膜性大腸炎	2
		MRSA腸炎	1
		細菌性腸炎	1
		急性胃腸炎	13
	食道、胃および十二指腸の疾患	逆流性食道炎	2
		胃潰瘍・十二指腸潰瘍	8
		胃炎	1
		上腸間膜動脈症候群	1
虫垂の疾患	虫垂炎	18	
非感染性腸炎	クローン病・潰瘍性大腸炎	6	
	小腸炎	1	

	疾患		件数
消化器系	腸のその他の疾患	急性腸間膜動脈閉塞症	1
		虚血性腸炎・虚血性結腸炎	5
		イレウス・腸閉塞	32
		S状結腸憩室穿孔	1
		結腸憩室炎・大腸憩室出血	27
		便秘症	3
		痔瘻・痔核・肛門周囲膿瘍	4
		直腸ポリープ・大腸ポリープ	131
		直腸潰瘍・結腸潰瘍	2
		腸穿孔	3
	腹膜の疾患	急性腹膜炎・穿孔性腹腔内膿瘍	7
	肝疾患	肝硬変	2
		肝膿瘍・肝嚢胞	3
	胆のう、胆管および膵の障害	胆のう結石・総胆管結石	34
		胆のう炎・胆管炎	33
		閉塞性黄疸	1
		急性膵炎・胆石性膵炎	9
	消化器系のその他の疾患	術後癒着性イレウス	6
		短腸症候群	1
		吐血	2
		消化管出血	8
		急性腹症	2
		嘔吐症	1
		嚥下障害	1
		食道静脈瘤	3
		下肢リンパ浮腫	1
		人工肛門形成状態	2
		異物誤嚥	2
		経口摂取困難	1
		蜂刺症	1
		造影剤ショック	1
	計		533

	疾患		件数
循環器系	失神・めまい・意識障害		15
	高血圧性疾患	高血圧性心疾患	5
	虚血性心疾患	不安定狭心症	57
		冠攣縮性狭心症	10
		労作性狭心症	22
		狭心症	15
		急性心筋梗塞	24
		再発性前壁心筋梗塞	1
		梗塞後狭心症	1
		急性冠症候群	1
		冠状動脈硬化症	4
		陳旧性心筋梗塞	10
		虚血性心疾患	1
	肺性心疾患	肺塞栓症	6
	その他の型の心疾患	心膜液貯留	1
		感染性心内膜炎	3
		大動脈弁狭窄症	4
		大動脈弁閉鎖不全症	2
		特発性拡張型心筋症	2
		肥大型心筋症	2
		完全房室ブロック	16
		心停止	3
		上室頻拍	14
		持続性心室頻拍	3
		心房細動および粗動	54
		洞不全症候群	15
		うっ血性心不全	155
		心原性肺水腫	2
		たこつぼ型心筋症	2
	脳血管疾患	小脳出血	1
		脳梗塞	8
	動脈、細動脈および毛細血管の疾患	下肢閉塞性動脈硬化症	17
		腹部大動脈瘤	1
		偽性動脈瘤	1
		下肢急性動脈閉塞症	1

	疾患		件数
循環器系	静脈、リンパ管およびリンパ節の疾患	深部静脈血栓症	2
		うつ滞性皮膚炎	2
	頭蓋内損傷	急性硬膜下血腫	1
	挿入物および移植片の合併症	ペースメーカー電池消耗	8
		大動脈弁置換術後	1
	計		493

	疾患		件数
内科系	細菌感染症	MRSA感染症	1
	ウイルス感染症	帯状疱疹	4
	性状不詳の新生物	骨髄異形成症候群	3
		本態性血小板血症	1
	血液および造血器の疾患	栄養性貧血	6
		その他の貧血	3
		血球貪食症候群	1
	免疫機構の障害	免疫不全	1
	内分泌・栄養および代謝疾患	甲状腺機能亢進症	1
		1型糖尿病	2
		2型糖尿病	60
		高血糖高浸透圧症候群	1
		低血糖	3
		脱水症	12
		高ナトリウム血症	2
		低ナトリウム血症	4
		高カリウム血症	1
		低カリウム血症	1
		低アルブミン血症	1
	精神および行動の障害	認知症	2
		不安神経症	1
	神経系疾患	ハンチントン病	1
		アルツハイマー型認知症	4
		てんかん重積状態	1
		脱力発作	1
		低酸素性脳症	1
	皮膚および皮下組織の感染症	蜂巣炎	21
		蜂窩織炎	3
		水疱性類天疱瘡	1
	内科系のその他の疾患	下肢脱力感	2
		頭重感	1
		慢性疼痛	2
		老衰	2
		出血性ショック	3
		下腿浮腫	1
		多臓器不全	1
	計		156

	疾患		件数
外科系	悪性新生物	心臓悪性腫瘍	1
		後縦隔脂肪肉腫	1
		後腹膜平滑筋肉腫	8
		前腕悪性軟部腫瘍	2
		大腿平滑筋肉腫	1
		殿部悪性軟部腫瘍	1
		骨盤部悪性軟部腫瘍	1
		背部脂肪肉腫	1
		平滑筋肉腫	3
		乳癌	11
		子宮平滑筋肉腫	3
		卵巣癌の疑い	1
		眼窩悪性腫瘍	1
		膠芽腫	1
		悪性神経膠腫	1
		腸間膜リンパ節転移	1
		転移性脳腫瘍	9
		血管内大細胞型B細胞性リンパ腫	1
		悪性リンパ腫	9
		癌性リンパ管症	1
	性状不詳の新生物	転移性胸髄腫瘍	1
		転移性腸間膜腫瘍	1
	ヘルニア	臬径ヘルニア	46
		腹壁ヘルニア	5
	皮膚膿瘍(体幹、臀部、四肢)	胸部膿瘍	1
		背部膿瘍	1
		殿部膿瘍	1
	処置の合併症	術後創部感染	1
		吻合部狭窄	3
	外傷性血胸	外傷性気胸	1
		外傷性血気胸	1
		計	120

	疾患		件数
泌尿器科	悪性新生物	去勢抵抗性前立腺癌	3
		前立腺癌	10
		腎盂癌	2
		尿管癌	1
		膀胱癌	16
	上皮内新生物	膀胱上皮内癌	1
	性状不詳の新生物	腎盂腫瘍	1
	敗血症	嫌気性菌敗血症	1
		グラム陰性桿菌敗血症	3
		グラム陽性菌敗血症	1
	糸球体疾患	抗糸球体基底膜腎炎	1
		ネフローゼ症候群	1
	腎尿細管間質性疾患	腎盂腎炎	18
		水腎症	3
		腎周囲膿瘍	1
		急性腎不全	6
		末期腎不全	1
	尿路結石症	両側腎尿管結石症(珊瑚状結石)	1
		尿管結石症	6
		結石性腎盂腎炎	2
		尿道結石嵌頓	1
	腎および尿管のその他の障害	腎機能低下	2
		急性出血性膀胱炎	1
	尿路系のその他の疾患	尿膜管膿瘍	1
		膀胱周囲膿瘍	1
		膀胱出血	6
		急性尿道炎	1
		尿路感染症	14
		尿閉	6
	男性生殖器の疾患	前立腺肥大症	6
		急性細菌性前立腺炎	4
		陰のう水腫	1
		精索捻転	1
		真性包茎	1
	女性生殖器の疾患	膀胱瘤	1
	計		126

	疾患		件数
歯科 口腔 外科	良性新生物	頬粘膜血管腫	1
	性状不詳の新生物	顎歯肉腫瘍	1
		顎骨腫瘍	4
	口腔および顎の疾患	萌出遅延	1
		骨性完全埋伏歯	24
		低位骨性完全埋伏歯	14
		過剰埋伏歯	1
		上顎完全正中過剰埋伏歯	4
		正中過剰埋伏歯	2
		根尖性歯周炎	31
		慢性根尖性歯周炎	21
		う蝕第3度慢性化膿性根尖性歯周炎	2
		智歯周囲炎	4
		下顎水平埋伏智歯	10
		低位下顎水平埋伏智歯	123
		下顎骨のう胞	2
		下顎隆起	2
		下顎骨壊死	2
		歯槽骨鋭縁	1
		舌白板症	2
	皮膚および皮下組織の感染症	頬部蜂窩織炎	2
		下顎部蜂窩炎	2
		顔面蜂窩炎	1
	口唇および口腔の開放創	口唇外傷性異物	1
	外科的合併症	歯科インプラント周囲炎	3
		歯科インプラント不適合	1
	計		262

	疾患		件数
整形外科	悪性新生物	仙骨部脊索腫の疑い	1
		甲状腺癌	1
		転移性骨腫瘍	11
		多発性骨髄腫	1
	良性新生物	骨軟骨腫	4
		大腿血管腫	1
	性状不詳の新生物	骨腫瘍	3
		軟部腫瘍	7
		皮膚膿瘍(頸部、体幹、臀部)	4
	神経系の疾患	手根管症候群	2
		梨状筋症候群	1
		上下肢筋不全麻痺	1
		下肢麻痺	2
		頸髄症	1
	皮膚および皮下組織の疾患	仙骨部褥瘡	1
		下腿皮膚潰瘍	1
	関節障害	関節リウマチ	2
		関節症	108
		その他の関節障害	14
	全身性結合組織障害	リウマチ性多発筋痛	1
	脊柱障害	腰部脊柱管狭窄症	21
		椎間板ヘルニア	10
		その他の脊柱障害	21
	軟部組織障害	臀部異物肉芽腫	1
		廃用症候群	1
		横紋筋融解	1
		膝関節滑膜炎	10
		その他の軟部組織障害	3
	骨障害及び軟骨障害	橈骨骨折後変形治癒	1
		手舟状骨偽関節	1
		腰椎偽関節	3
		特発性大腿骨頭壊死	6
	頸部損傷	頸椎捻挫	1
	胸部損傷	胸椎圧迫骨折	13
		肋骨骨折	4

	疾患		件数
整形外科	腰椎および骨盤部の損傷	腰部打撲傷	3
		腰椎骨折	46
		骨盤骨折	9
	肩および上腕の損傷	鎖骨骨折	19
		肩甲骨骨折	3
		上腕骨骨折	21
		肩および上腕その他の損傷	3
	肘および前腕の損傷	前腕の骨折	30
	手の損傷	手の表在損傷	1
		手の骨折	4
		指の損傷	3
	大腿の損傷	大腿骨骨折	91
		膝蓋靱帯損傷	1
	膝および下腿の損傷	下腿部の表在損傷	2
		下腿の骨折	34
		膝の関節および靱帯の損傷	35
		アキレス腱断裂	1
	足の損傷	足骨骨折	4
		足関節および靱帯の損傷	2
	その他の損傷	その他の損傷	3
	人工関節の合併症	人工関節のゆるみ	1
	計		580

9. 外来化学療法受療患者数(延べ人数)

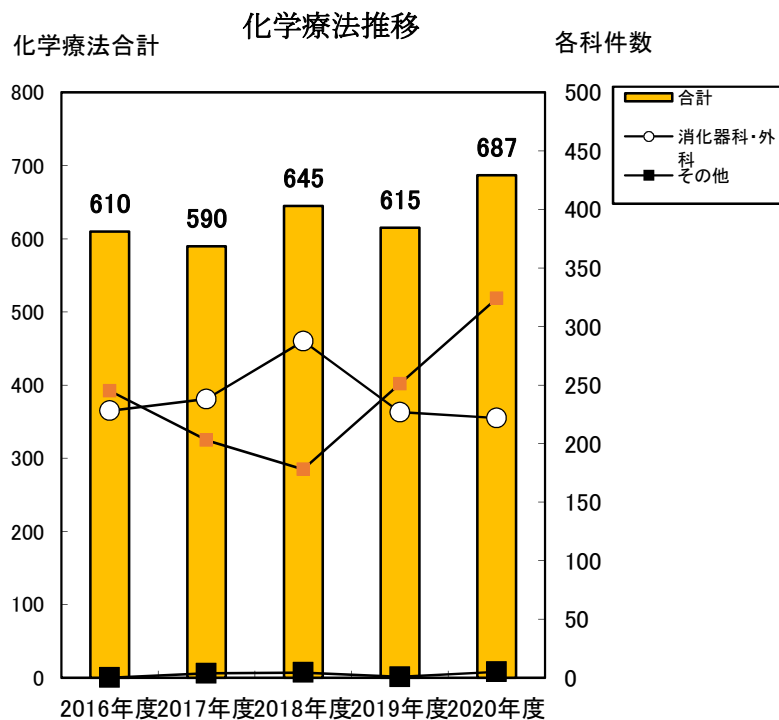
2016年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
呼吸器科	16	24	25	18	23	18	18	19	23	28	21	12	245
消化器科・外科	31	35	36	33	43	28	28	37	23	27	22	22	365
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	47	59	61	51	66	46	46	56	46	55	43	34	610

2017年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
呼吸器科	10	15	27	24	36	21	27	17	8	7	4	7	203
消化器科・外科	24	27	21	31	33	30	37	37	35	34	34	38	381
その他	0	0	0	1	1	0	2	1	1	0	0	0	6
合計	34	42	48	56	70	51	66	55	44	41	38	45	590

2018年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
呼吸器科	10	10	17	13	12	8	19	23	18	20	14	14	178
消化器科・外科	40	40	34	42	42	31	44	40	32	43	42	30	460
その他	0	2	0	1	1	1	0	1	0	0	1	0	7
合計	50	52	51	56	55	40	63	64	50	63	57	44	645

2019年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
呼吸器科	21	15	10	19	26	25	29	20	24	24	19	19	251
消化器科・外科	36	43	36	33	29	26	31	27	19	27	24	32	363
その他	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
合計	57	58	46	52	56	51	60	47	43	51	43	51	615

2020年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
呼吸器科	15	17	25	29	37	44	41	30	29	18	20	19	324
消化器科・外科	45	42	44	42	33	34	31	17	11	18	12	26	355
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	4	2	8
合計	60	59	69	71	70	78	72	47	41	37	36	47	687



Ⅲ 診療部門の動向

消化器外科

○手術件数

区分	件数
全身麻酔	7
全麻＋硬膜外麻酔	58
全麻＋伝達麻酔	105
脊椎麻酔	5
局麻	28
合計	203

○手術内訳 ()…腹腔鏡下手術件数

術式	件数
ヘルニア手術	50
胆嚢摘出術(腹腔鏡下含む)	34 (31)
結腸切除術(腹腔鏡下含む)	24 (16)
虫垂切除術(腹腔鏡下含む)	15 (14)
直腸切除術(腹腔鏡下含む)	14 (12)
中心静脈植込型カテーテル設置(抗悪性腫瘍剤植込型含む)	23
腸閉塞手術	7
胃切除術(全摘含む)	6
皮下腫瘍切除術	6
吻合術	5
閉鎖術	5
直腸腫瘍摘出術	1
人工肛門造設	2
腹膜炎手術	2
腸管癒着手術	2
肝部分切除	1
痔瘻根治術	1
尿管膜摘出	1
その他(試験開腹、洗浄ドレナージ等)	4
合 計	203

令和 2 年度の手術件数は、207 件と前年度の 181 件と比較して約 14.4%増加した。内容については局所麻酔が 30 件（40 件）と減少したが、腰椎麻酔 5 件（3 件）全身麻酔が 172 件（138 件）と増加した。

疾患別に見ると胃の疾患が 6 件（14 件）と減少した。反対に腸疾患は 60 件（44 件）と増加し、腹腔鏡下の腸手術が 28 件（14 件）と割合も増えていた。また虫垂切除術は 15 件（9 件）と増加し、そのうち 14 件が腹腔鏡手術であった。胆嚢疾患に関しては、34 件（23 件）、そのうち開腹手術が 3 件（9 件）と減少し、腹腔鏡下手術が 31 件（14 件）と増加した。また単径部ヘルニア・腹壁ヘルニアは 50 件（49 件）と横ばいであった。ほかには肛門疾患は 1 件（3 件）、食道癌が 0 件（1 件）、膵頭十二指腸切除術が 0 件（0 件）、膵体尾部切除が 0 件（0 件）、肝疾患が 1 件（0 件）と少なかった。

サルコーマ手術は前年同様 0 件（0 件）で、今後もないと思われる。乳腺疾患は 4 件（3 件）と増加した。

本年度は外科医師を増員できなかったが、コロナ禍のため近隣の施設が一般診療を縮小したため当院への紹介が増え、手術件数が昨年度より増加したと考えられる。今後も腹腔鏡手術やヘルニア手術の件数などの実績を当院のホームページや医師会カンファレンスで示すことで手術件数のさらなる増加が期待できると考える。また周辺の高度医療施設と交流を深めることで、一般的疾患の紹介も増やすことができると考える。

⑨（ ）内は令和 1 年度の件数

第二診療部外科長
佐藤 将彦

整形外科

○手術件数

区分	件数
全身麻酔	201
全麻＋硬膜外麻酔	65
全麻＋伝達麻酔	212
脊椎麻酔	8
静脈麻酔	4
局麻	44
合計	534

○手術内訳

術式	件数
<膝関節>	
人工膝関節置換術・再置換	56
膝周囲骨切り術(大腿・下腿)	9
膝関節鏡手術(靱帯・半月など)	82
<脊椎外科>	
脊椎後方(除圧・固定・矯正)	61
その他脊椎手術	13
<股関節>	
人工関節置換術・再置換術	18
その他股関節手術	2
<肩関節>	
肩関節鏡手術・関節形成術	4
<上肢>	
関節形成・神経・腱など	47
肘関節(人工関節・関節形成)	1
<骨軟部腫瘍>	19
<骨折・外傷>	
大腿骨近位部(人工骨頭・骨接合)	79
その他の骨折・外傷	76
<抜釘・その他>	67
合計	534

現在、整形外科の常勤医は 2 名です。大学病院や連携病院に所属する非常勤医の協力も得て、多様な症例へ対応していますが、令和 2 年度の脊椎外科手術件数はコロナ禍の影響もあり、74 例とやや減少しました。

安全確実な治療を第一に、困難な症例にも取り組み、地域医療に貢献することを目指します。

脊椎外科センター長 森井 次郎

胸部外科

○手術件数

区分	件数
全身麻酔	2
全麻＋硬膜外麻酔	18
全麻＋伝達麻酔	6
局麻	2
合計	28

○手術内訳

術式	件数
肺悪性腫瘍手術	14
膿胸手術	1
気胸・嚢胞性肺手術	3
胸膜・胸壁手術	6
乳腺腫瘍悪性手術	3
乳腺腫瘍手術	1
合計	28

令和2年度（2020年4月～2021年3月）胸部外科分野年報告

令和2年度の胸部外科分野での手術症例は合計22例。

全例が胸腔鏡下での手術であった。

内訳は以下の通り。

【原発性肺癌】

原発性肺癌に対する手術は全13例。肺葉切除以術上は7例、区域切除術は3例、部分切除術は2例であった。肺葉切除のうち肺尖部胸壁浸潤腫瘍に対して胸壁合併切除例が1例であった。

また、区域切除は1区域～3区域＋1亜区域切除までと症例に応じて摘出区域に幅があった。部分切除症例2例は、末梢肺野型の小結節腫瘍症例であったため、縮小手術を選択した。

【転移性肺腫瘍】

転移性肺腫瘍に対する手術は1例、多臓器癌術後の症例であった。肺門に近い中枢側の腫瘍であり、区域切除となった。

【気胸】

気胸に対する手術は7例。若年者の自然気胸症例は3例、肺気腫をベースに発症した気胸症例は3例であった。

【その他】

外傷による多発肋骨骨折、肺損傷に対する手術が1例。胸腔鏡下で肺損傷部位の縫縮＋肋骨のプレート固定を行った。

膿胸、縦隔腫瘍に対する手術は0件であった。

令和2年度は、前半は胸部外科の非常勤医師の移動による手術制限があったものの、8月より関連の複十字病院呼吸器外科より非常勤医師が新たに1名来られたため、当院の新たな呼吸器外科として少しずつ手術を再開する移行期となった。手術の術式は胸腔鏡と直視を併用したハイブリッド手術で、これまでの手術創より小さな創での手術を行っており、術後経過も短縮されている。

新たな呼吸器外科として、今後も手術件数を増やすためにさらに内科とチームとして連携して診療を行っていく。

胸部外科 高橋 佳奈

泌尿器科

○手術件数

区分	件数
全身麻酔	19
全麻＋硬膜外麻酔	10
全麻＋伝達麻酔	1
脊椎麻酔	8
脊麻＋伝達麻酔	1
静脈麻酔	5
局麻	9
合計	53

○手術内訳

術式	件数
経尿道の膀胱悪性腫瘍手術	16
経直腸の前立腺生検	9
経尿道のステント留置術	7
包茎手術	4
経尿道の前立腺手術	3
経尿道の膀胱結石摘出術	2
経皮的腎瘻造設	2
膀胱内凝結除去術	2
逆行性腎盂造影	2
精巣摘出	1
陰嚢水腫手術	1
経尿道の膀胱生検	1
膣閉鎖術	1
膀胱瘻造設術	1
精索捻転手術	1
合計	53

令和 2 年度は、病棟業務及び手術を、小林 信幸及び渡邊 晶子の常勤医師 2 名が担当し、外来業務及び外来での検査は、非常勤医師の近藤 由紀子医師の協力を得、3 名で担当した。

外来診療は、尿路感染症、尿路結石症、良性・悪性の尿路性器腫瘍、過活動膀胱、神経因性膀胱などによる排尿機能異常、尿路性器外傷などに加え、検診にて尿潜血を指摘された症例の精査などを行い、外来診察室で、エコー検査、尿沈渣、膀胱鏡、尿流量測定、透視室で尿道造影、腎瘻カテーテル交換を行った。

尿路結石については、自然排石が期待できない症例を中心に、原則、外来通院、ジクロフェナクナトリウム座薬の挿入だけの無麻酔で、体外衝撃波結石破砕術(ESWL)を施行した。2020 年の破砕数は 48 例で、2019 年の 55 例に比べ、減少した。

手術は、令和元年度が 51 件だったのに対し、令和 2 年度は 53 件でわずかに増加した。手術内容は膀胱がんに対する TUR-Bt が 11 件から 17 件に増加、PSA 高値で前立腺癌を疑い施行した前立腺生検は、10 件から 9 件のわずかな減少にとどまった。一方、良性腫瘍の前立腺肥大症に対しての TUR-P は 11 件から 3 件に激減した。麻酔下の尿管ステント挿入・交換は、11 件から 7 件に減少した。

令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染症の流行の影響もあったのか、悪性疾患の手術件数は維持できたのに対し、良性疾患でバルーンカテーテル留置や薬物療法で、排尿を確保でき、日常生活に不自由を感じない人々に手術を同意させるのが難しかった。しかし、長期バルーンカテーテル留置を続けることで、複雑性尿路感染症や結石形成、膀胱機能廃絶に至るケースも少なくない。排尿ケアチームを結成し、排尿自立に向けた啓蒙の必要性を感じている。

尿路性器癌の手術は、現在のところ、内視鏡手術しか行っておらず、開腹や腹腔鏡手術は他院に紹介しているのが現状である。

限局性前立腺がんについては、放射線治療も手術療法に比べ、見劣りしない成果があげられるので、50 歳代以降で比較的若年層を中心に、PSA 検診を積極的に行い、根治可能な前立腺がんを積極的に拾い上げ、放射線治療に誘導できればと考える。

また、進行した前立腺がんや膀胱がんなどには化学療法も行っているが、最近は新規薬剤も出てきているので、治療の機会を逃さず、適切な治療計画を立てることが必要と考える。

泌尿器科は、従来、小林 信幸医師により、患者さんに十分時間をとって、インフォームド・コンセントに努めることが常になっており、患者さんやその家族と良好な関係が得られていることが多い。この方針は極力維持していきたいと考える。

泌尿器科部長

渡邊 晶子

歯科・口腔外科

○手術件数

区分	件数
全身麻酔	232
静脈麻酔	3
合計	235

○手術内訳

術式	件数
抜歯	203
歯根嚢胞摘出術	3
腫瘍摘出(切除)	7
腐骨除去術	5
インプラント摘出	5
唾液腺摘出術	1
歯根端切除術	3
口腔内消炎手術	3
上顎洞嵌入歯除去術	2
異物除去	1
下顎隆起形成術	1
その他	1
合計	235

全身麻酔手術症例数は 227 件で前年度より増加した。紹介患者数は 1,260 名で過去最高となった。

全身麻酔手術症例・外来手術症例共に歯科医療機関からの紹介を受けた智歯抜歯など抜歯が圧倒的に多く当科の特徴となっている。今後とも周辺地域の歯科医療機関との信頼関係を重視しつつ連携を深めていきたい。

歯科口腔外科センター長 山口 真吾

循環器病センター

循環器センターが設立されて 18 年、循環器科は、冠動脈疾患、弁膜症疾患、不整脈疾患の診断と治療に携わり、そのほか肺動脈塞栓症、末梢動脈/動脈硬化性狭窄症など、地域医療を元に救急治療を担当してきました。中村、笠岡、御手洗、田村、山田を中心に、阿部、池上の非常勤の先生とともに外来患者数、紹介数、救急医療の対応、カテーテル検査、治療を含め維持、順調に増加しております。

令和 2 年度の診療内容は心臓カテーテル検査数 187 件（昨年 167 件）PCI 件数 84 件（昨年 60 件）、不整脈治療数 76 件（昨年 56 件）内肺静脈隔離術 49 件（昨年 48 件）、ペースメーカー34 件（昨年 14 件）を行なっております。

また、心房細動の加療が軌道に乗り不整脈専門施設認定による症例の増加、地域医療施設からの連携強化と専門加療の強化、今後、救急対応の強化を念頭に加療を行なっております。

さらなる地域医療への貢献、他院、防衛医科大学、同財団法人である清瀬市の複十字病院との連携を取りながら、一丸となって努力していく次第であると思われます。

循環器病センター長
中村健太郎

当センターの外来は現在日本糖尿病学会専門医 3 人（常勤：谷口、非常勤：関口、保川）が、主に糖尿病や肥満症、脂質異常症、高尿酸血症、脂肪肝などの代謝疾患、近年では公立昭和病院産婦人科、内分泌代謝科と協力し妊娠糖尿病の安定期の加療を行っている。また日本内分泌学会専門医である関口医師を中心に甲状腺疾患など内分泌疾患の診療件数は著増し良質な医療を提供している。

入院では糖尿病の合併症管理やインスリン治療の導入、血糖コントロールを施行。一部の入院糖尿病患者に対して CGM（持続的血糖モニタリング）により、血糖の変動を確認しながらインスリンや GLP-1 受容体作動薬、SGLT2 阻害薬、経口薬などの調整も行っている。内分泌負荷試験に関しては、副腎偶発腫瘍に関するデキサメサゾン抑制試験、偽性副甲状腺機能低下症における Ellsworth -Howard 試験、クッシング病と異所性 ACTH 症候群の鑑別として CRH 試験などを施行し評価・加療を継続的に行っている

<診療実績>

2019 年度、2020 年度は COVID-19 のため受診を控える傾向が在ったが大幅な減少はなく順調に維持している。

○外来での在宅インスリン自己注射指導件数は 2019 年度 1306 件、2020 年度 1418 件で今後も症例の増加を目指している。

○糖尿病透析予防指導を医師及び看護師、管理栄養士の 3 者で実施。

○外来・入院糖尿病栄養指導は 2019 年度 604 件、2020 年度 519 件であった。

○入院糖尿病教室は医師、看護師、薬剤師、管理栄養士の各職種毎月 1 回ずつ施行している。

○NST（栄養サポートチーム）は、2019 年度 703 件、2020 年度 533 件である。当院は口腔外科との緊密な連携を行い医科歯科連携では 2019 年度 703 件、2020 年度 533 件で継続している。

<学術発表会>

- 1) 谷口 由紀子、大西 哲郎、森 豊、江里口 正純：オマリグリプチン単回投与後 7 日間の連続的な血糖日内変動の推移。第 59 回日本糖尿病学会年次学術集会、京都、2016 年 5 月
- 2) 谷口 由紀子、大西 哲郎、江里口 正純、森 豊：SGLT2 阻害薬投与による糖毒性解除を介した食後血糖変動の変化—内因性インスリン分泌能との関係—。第 59 回日本糖尿病学会年次学術集会、京都、2016 年 5 月

- 3) 大西 哲郎、谷口 由紀子、森 豊、塩田 吉宣：トレラグリプチン反復投与後の投与1日目と7日目の血糖日内変動の比較. 第59回日本糖尿病学会年次学術集会, 京都, 2016年5月
- 4) 谷口 由紀子、大西 哲郎、森 豊、江里口 正純：基礎インスリンとリキシセナチドの併用療法における SGLT2 阻害薬併用の意義. 第54回日本糖尿病学会関東甲信越地方会, 横浜, 2017年1月
- 5) 大西 哲郎、谷口 由紀子、森 豊、塩田 吉宣：リラグルチドからデュラグルチドへの変更に伴う血糖日内変動の変化. 第54回日本糖尿病学会関東甲信越地方会, 横浜, 2017年1月
- 6) 谷口由紀子, 関口芳弘, 関 清之：清涼飲料水ケトosisによる急激な血糖変動が原因と考えられる糖尿病性舞踏病の一例. 第57回日本糖尿病学会関東甲信越地方会, 横浜, 2020年1月

<論文業績>

- 1) 谷口由紀子、大西哲郎、森 豊. オマリグリプチン初回投与後7日目までの血糖日内変動の連続的な推移 ProgMed 37: 1213~1218, 2017
- 2) 谷口由紀子、大西哲郎、森 豊. イプラグリフロジン投与による血糖日内変動の変化と内因性インスリン分泌能との関係 ProgMed 37: 1225~1232, 2017
- 3) 谷口由紀子、関口芳弘、中村健太郎. A case of intractable stasis dermatitis accompanied with congestive heart failure caused by diabetes mellitus. Diabetes Journal Vol.47, No4: 133-137, 2019
- 4) 関口芳弘、谷口由紀子. 未治療2型糖尿病患者における朝食後血清Cペプチドと朝食後随時血糖との比から求めた新たなインスリン分泌能の評価方法ーその下限値について-糖尿病・内分泌代謝科: vol. 50, No. 6: 481-488, 2020

<講演、等>

東村山地域の高齢者向け講座「いきいき元気塾」での講演を年一回、以下の通り施行している。

- 2017年12月8日「糖尿病について」
- 2018年5月11日「糖尿病合併症について」
- 2019年3月8日「糖尿病による腎臓の病気について」
- 2020年3月13日「糖尿病は眼にご注意」・・・COVID-19の流行により以降中断中。

さらに糖尿病療養指導チームへの教育活動のため医療スタッフ向けの糖尿病講習会を年1回程度行いチーム医療の質を向上させるよう努力している。外部

の専門家にご来訪いただき「医療スタッフのための糖尿病治療セミナー」を下記のように開催。当院では医師、歯科医師、看護師、薬剤師、理学療法士、栄養士、歯科衛生士など 50 名ほどが参加し知識の共有を図り日々研鑽をしている。

○2017 年 11 月 17 日「糖尿病診療のスキルアップフットケアを中心として」
多摩北部医療センター 町田 景子糖尿病認定看護師 （座長谷口）

○2019 年 3 月 29 日「チームで取り組む抗がん薬治療の合併症管理」
埼玉医科大学国際医療センター通院治療センター 玉木秀子副看護師長
（座長谷口）
（COVID-19 流行により以降中断中）

また社会における啓発や政策への協力として一般社団法人臨床糖尿病支援ネットワーク・医学倫理審査委員を谷口が担当している。

<教育認定施設関連>

- 日本糖尿病学会教育認定施設
（2018 年度より公立昭和病院産婦人科、防衛医科大学校脳神経外科と連携）
- 日本肥満学会教育認定施設

尚、当院では上記施設認定の維持のため専門医、指導医の資格維持と日々における実績を上げるよう日々努力し、さらに上記資格の取得を目指す医師の入職も常時募っている。

生活習慣病センター 糖尿病科長
谷口 由紀子

放射線治療センター

放射線治療センター 小山 和行

放射線治療科は平成 26 年 1 月に放射線治療専門医（日本医学放射線学会・日本放射線腫瘍学会共同認定）の放射線診療センター長および診療放射線技師 2 名で放射線治療を開始した。設置放射線治療器は高精度治療から一般の治療までに対応できるため、1 台ではあるがほとんどのがん治療に対応が可能である。

当院の治療システムでの診察から放射線治療の過程を示す：診察---放射線治療計画用 X 線 CT---放射線治療装置で治療計画作成---治療計画内容の検証（放射線治療装置との整合性、線量分布、1 回治療線量、総線量など）---放射線治療実施---治療中診察---放射線治療計画変更（必要時）---治療終了---治療後経過観察、となる。

2020 年度（2020 年 4 月から 2021 年 3 月）の放射線治療実績を表 1 に、保険点数実績（過去 5 年分の放射線治療算定項目のみを集計、入院費・検査・薬剤費などは含めず）を表 2 に示す。表 3 に治療患者数の推移に示す。病病連携、病診連携の強化に努めたことで新患数は 211 例、新患・再患の合計は 299 例となり、連携が新患で約 84%、全体で約 84%であり、医療連携に大きな役割を果たしている。表 4 に治療法別の患者数の推移を示すが、IMRT(VMAT：回転型強度変調法)での治療数が約 75%を占めている。VMAT は高精度治療法であり、ピンポイントでの治療が可能のため、治療線量の増加（1 回線量の増加）、病巣周囲の正常組織の有害事象の低減を図ることが可能なため、連携病院での高い評価により、依頼数の増加につながっている。また、高精度治療は診療報酬も高いため、表 2 に示すように安定した収益確保に結びついている。

補足：放射線治療患者数には、2016 年度は国立病院機構東京病院放射線治療機の更新により約 6 か月、2018 年度は防衛医科大学校病院放射線治療機のグレードアップにより約 3 か月放射線治療が停止したため、当院で放射線治療患者の受け入れを行った。

今後の課題

治療技術（高精度治療）の質は確保でき、周辺医療機関との相互信頼関係の構築も築けている。

高度な治療法の実施には治療計画立案、症例毎の線量測定による治療法の照合・検証作業を元に高精度放射線治療を実施した結果、防衛医科大学校病院および関連施設、亀田総合病院（以前は国際医療福祉大学に在職）で肉腫担当医師より＜困難な症例の放射線治療ができる施設＞として患者さんの放射線治療を担っている。

しかし、日本腫瘍学会の施設認定基準をクリアするためには、放射線治療に関わる施設基準（治療専門技師、医学物理士、品質管理士、放射線治療専門看護師など）を満た

すことが望まれる。とくに、医療機器安全管理料、高エネルギー放射線治療 1 回増量加算、強度変調放射線治療(IMRT)、定位放射線治療の診療報酬算定には放射線治療担当スタッフの充実が必須である。

人的要因によらない治療技術の維持ができることで、病病連携、病診連携による新患者数の増加・維持の継続が可能となる。

放射線治療に関わる保険算定、施設基準

- ・ 外来放射線照射診療加算
- ・ 放射線治療専任加算、外来放射線治療加算
- ・ 画像誘導放射線治療加算
- ・ 呼吸性移動対策加算

- ・ 医療機器安全管理料
- ・ 高エネルギー放射線治療 1 回増量加算
- ・ 強度変調放射線治療(IMRT)
- ・ 定位放射線治療
- ・ がん患者指導管理料
- ・ がん性疼痛緩和指導料

などがあるが、上記 4 項目以外は人的要因により現在算定不可であるが、数年計画で算定可能な施設を目指す。

放射線治療に関する研修記録を表 5 に示す。

表1:放射線治療実績

月	新患者数	延べ人数	延件数
2020年4月	20	548	638
2020年5月	10	428	482
2020年6月	24	516	622
2020年7月	20	534	681
2020年8月	21	549	617
2020年9月	12	614	711
2020年10月	23	557	669
2020年11月	15	489	590
2020年12月	17	455	548
2021年1月	17	460	531
2021年2月	13	431	533
2021年3月	18	525	586
計	210	6,106	7,208

表2 保険点数実績(過去5年間)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2020年度	1,418,270	1,015,196	1,200,068	1,303,024	1,353,420	1,520,114	1,368,068	1,179,934	1,140,888	1,025,514	1,050,140	1,232,146	14,806,782
2019年度	1,600,486	1,268,918	1,293,842	1,627,168	1,351,382	1,267,164	1,094,074	1,346,850	1,351,704	1,217,558	1,141,596	1,348,654	15,909,396
2018年度	1,486,860	1,500,178	1,377,906	1,533,496	1,802,936	1,023,464	1,470,650	1,465,734	1,521,956	1,247,736	1,169,700	1,356,200	16,956,816
2017年度	861,042	1,227,882	1,141,500	805,826	1,091,738	1,090,946	1,436,010	1,324,674	1,478,726	1,208,422	1,365,944	1,397,756	14,430,466
2016年度	610,400	682,120	838,500	751,720	738,640	908,180	1,042,651	1,036,850	921,186	872,336	737,606	1,096,154	10,236,343

(放射線治療算定項目のみを集計、入院費・検査・薬剤費などは含めず)

表3 過去5年間の治療患者数の推移

	新患数			再患			小計		合計
	院内	連携	小計	院内	連携	小計	院内	連携	
2020年度	33	178	211	14	74	88	47	252	299
2019年度	35	174	209	19	76	95	54	250	304
2018年度	30	212	242	19	98	117	49	310	359
2017年度	30	178	208	21	35	56	51	213	264
2016年度	71	125	196	30	10	40	101	135	236

表4 治療法別患者数の推移

	年度	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
治療法	1門	4	15	30	35	17	37	14	33
	対向2門	11	54	41	75	32	39	22	39
	非対向2門	1	9	20	21	31	57	30	46
	3門	14	23	16	2	1		1	
	4門以上	11	58	27	16	9	13	9	18
	IMRT(VMAT)		28	133	227	286	303	228	274
	VMAT比率		(15.0%)	(49.8%)	(60.4%)	(76.1%)	(67.5%)	(75.0%)	(66.8%)
	合計	41	187	267	376	376	449	304	410

IMRT：強度変調法

VMAT：回転型強度変調法

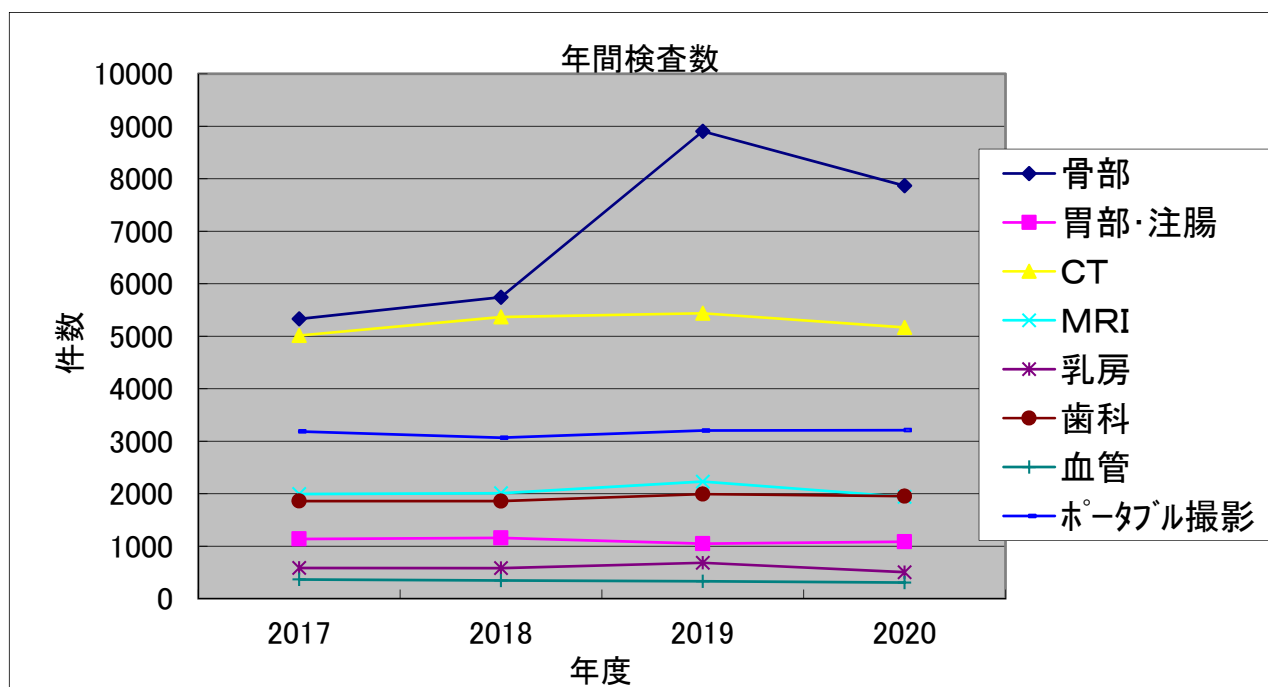
表5 2020年度 学会・研修記録

分類	参加者	学会	開催時期	開催場所
研修	小山和行	第79回日本医学放射線学会総会	2020/4	web開催
研修	小山和行	第56回日本医学放射線学会秋季臨床大会	2020/10	web開催
研修	小山和行	日本放射線腫瘍学会第33回学術大会	2020/10	web開催
研修	織田 篤	第75回日本放射線技術学会学術大会	2020/4	web開催
研修	織田 篤	日本放射線技術学会秋季学術大会	2020/10	web開催

IV 検査部門の動向

放射線技術科 業務年報

		2019年4月～2020年3月				2020年4月～2021年3月					
		入院	外来	ドック 集検 その他	計	入院	外来	ドック 集検 その他	計	前年 差	前年 比
一般	胸部単純	4,922	10,006	4,091	19,019	5,020	8,806	3,572	17,398	-1,621	-9%
	腹部単純	1,065	1,103		2,168	1,025	1,058		2,083	-85	-4%
	骨部	2,103	6,801		8,904	2,507	5,360		7,867	-1,037	-12%
造影	胃部	15	8	998	1,021	7	2	1,050	1,059	38	4%
	注腸	12	5		17	16	8		24	7	41%
	消化器系その他	99	4		103	80	0		80	-23	-22%
	泌尿器系	11	8		19	4	4		8	-11	-58%
	血管造影	330	0		330	306	0		306	-24	-7%
	その他の造影	12	8		20	7	3		10	-10	-50%
	CT	1,649	3,788		5,437	1,499	3,668		5,167	-270	-5%
	MRI	394	1,836		2,230	316	1,623		1,939	-291	-13%
	乳房		683		683		504		504	-179	-26%
	その他	60	69		129	30	41		71	-58	-45%
	歯科(パノラマ)		1,991		1,991		1,889		1,889	-102	-5%
	歯科(デンタル)		86		86		63		63	-23	-27%
	骨塩量測定		369		369		400		400	31	8%
合計件数		10,672	26,765	5,089	42,526	10,817	23,429	4,622	38,868	-3,658	-9%
病室撮影(再掲)		3,203			3,203	3,210			3,210	7	0%



- * CVID-19の影響で全体で9%の減。
- * 乳房検査は26%の減ではあったが、日曜日に2回検診を行い、今年も続ける予定。
- * CTは5%減ではあるが検査部位数は前年を上回る。

(%は前年比)

放射線技術科科长 河合 隆夫

2. 検査科

検査件数

	R1年度	R2年度		R1年度	R2年度
尿・便等の一般検査	30,680	28,337	生 理 検 査	12,888	11,815
細 菌 検 査	4,622	4,784	心 電 図	5,605	5,418
抗 酸 菌	2,052	2,369	ト レ ッ ド ミ ル	170	133
一 般 細 菌	2,570	2,415	ホ ル タ ー 心 電 図	504	481
臨 床 化 学 検 査	494,411	485,342	肺 機 能	922	230
免 疫 血 清 検 査	55,003	52,348	精 密 肺 機 能	28	9
血 液 一 般 検 査	68,115	67,277	心 エ コ ー	1,637	1,521
外 部 委 託 検 査	14,836	15,416	腹 部 エ コ ー	572	575
病 理 検 査	1,972	1,812	表 在 エ コ ー	107	101
細 胞 診	1,167	1,041	乳 腺 エ コ ー	249	212
生 検 : 消 化 器	323	321	頸 動 脈 エ コ ー	212	191
生 検 : 呼 吸 器	52	42	神 経 伝 導 速 度	7	0
組 織	257	229	聴 力 検 査	348	391
手術材料: 消化器	113	137	眼 底 検 査	670	613
手術材料: 呼吸器	22	32	脈 波	377	377
集 検	36	10	検 診 心 電 図	1,467	1,559
輪 血 関 連	1,119	868	イ ベ ン ト レ コ ー ダ ー	13	4
R B C	522	416			
F F P	87	46			
血 小 板	30	25			
洗 浄 赤 血 球	0	2			
抗体スクリーニング	480	379			

本年度新型コロナウイルス感染症の影響で、検査科全体の検査件数は昨年度に比べやや減少している。

その中、抗酸菌検査の件数が増加しているが、年度途中に細菌検査依頼伝票の変更を行い、セット内容を変更したため件数の増加となった。

外部委託の増加分は、ほぼ新型コロナウイルスのPCR検査分。

病理検査では消化器・呼吸器共に手術材料の検体が増加しているので、現在迅速診断の体制ができていないが、迅速診断の体制を作ることにより、より質の高い医療を提供できると共に、保険点数の加算が非常に高いため、収入増も見込まれる。

生理検査では、新型コロナウイルスの感染リスクが高いため、肺機能検査の依頼は必要最低限にとどめてもらっているため、昨年度に比べ大幅に減少している。

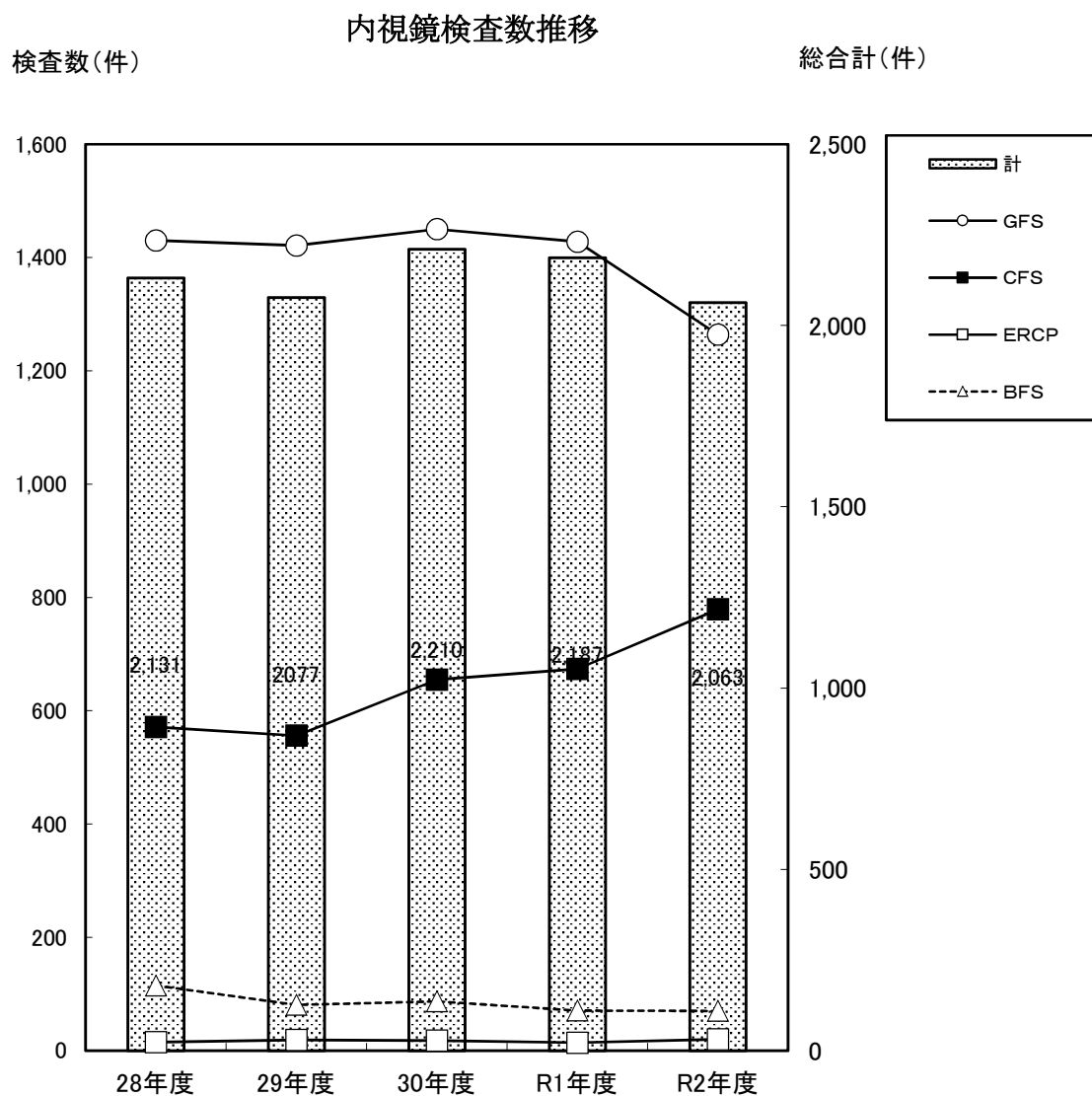
神経伝導速度検査は機器の老朽化のため、廃止とした。

検診が増えた事により、検診心電図、聴力が増加した。

検査科長 青井 秀樹

3. 内視鏡検査件数

	28年度	29年度	30年度	R1年度	R2年度
G F S	1,430	1,421	1,450	1,428	1,264
C F S	571	556	655	674	779
E R C P	15	19	18	14	20
小 計	2,180	2,223	2,039	2,116	2,063
B F S	115	81	87	71	70
総 合 計	2,292	2,326	2,154	2,187	2,133



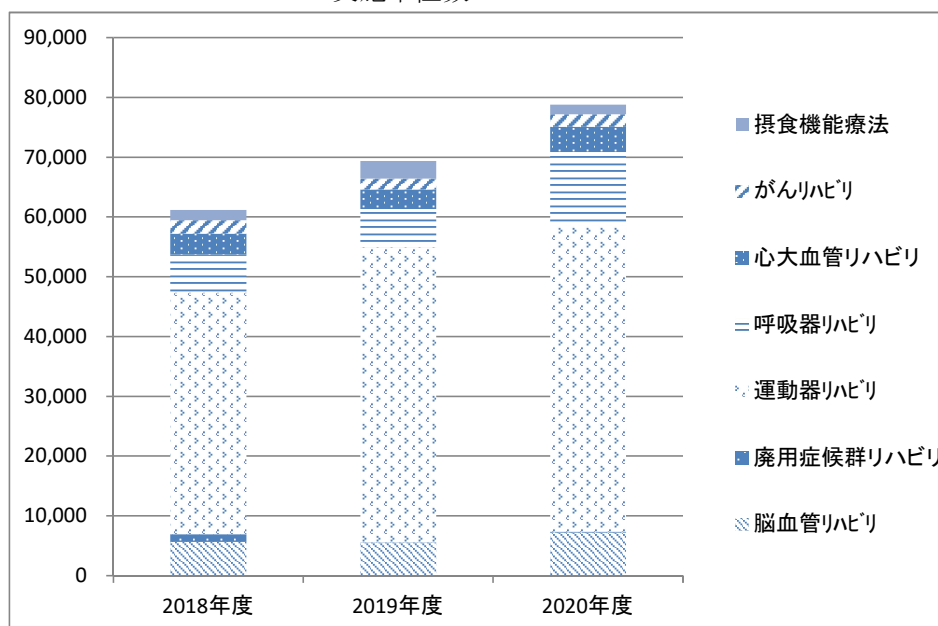
V リハビリテーション科

リハビリ内容件数	2018年度			2019年度			2020年度		
	4～9	10～3	計	4～9	10～3	計	4～9	10～3	計
呼 吸	967	1,065	2,032	1,375	1,109	2,484	2,195	2,576	4,771
関 節 可 動 域	9,269	10,108	19,377	11,363	11,662	23,025	11,563	11,875	23,438
筋 力 強 化	8,493	8,955	17,448	11,104	10,557	21,661	10,750	11,736	22,486
歩 行 訓 練	6,756	7,040	13,796	8,009	8,361	16,370	8,208	9,325	17,533
基 本 動 作 ・ ADL	8,625	8,755	17,380	9,288	9,798	19,086	10,824	11,748	22,572
エルゴメーター	1,170	1,246	2,416	1,460	1,184	2,644	1,496	1,619	3,115
義肢装具療法	311	353	664	379	431	810	356	316	672
温 熱 療 法	605	661	1,266	402	451	853	243	178	421
認知・精神機能	736	726	1,462	441	377	818	574	470	1,044
嚥 下	770	1,157	1,927	1,640	1,549	3,189	1,792	1,874	3,666

脳血管リハビリ	2,407	3,279	5,686	2,556	2,984	5,540	4,053	3,164	7,217
廃用症候群リハビリ	103	1,160	1,263	49	13	62	29	152	181
運動器リハビリ	21,598	18,837	40,435	24,100	25,281	49,381	26,202	24,918	51,120
呼吸器リハビリ	2,921	3,445	6,366	3,690	2,699	6,389	5,493	6,882	12,375
心大血管リハビリ	1,433	2,028	3,461	1,668	1,561	3,229	2,064	2,189	4,253
がんリハビリ	1,176	1,097	2,273	1,089	760	1,849	830	1,216	2,046
運動療法合計単位数	29,638	29,846	59,484	33,152	33,298	66,450	38,671	38,521	77,192

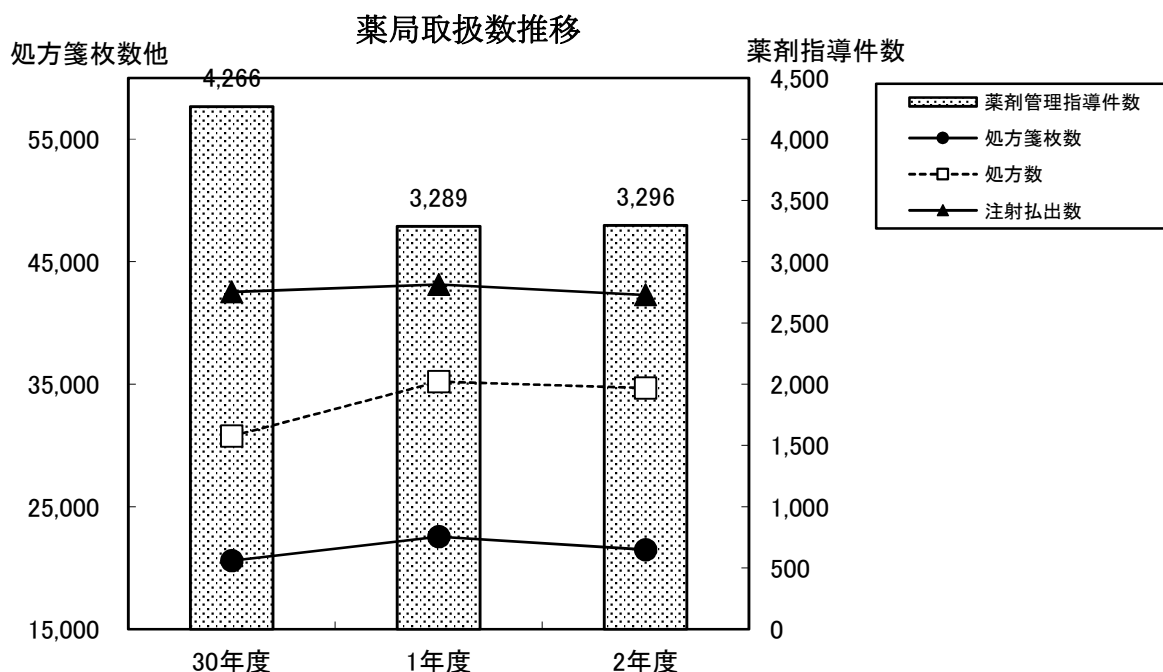
消炎・鎮痛・牽引件数	287	199	486	192	205	397	108	105	213
摂食機能療法人数	714	1,011	1,725	1,462	1,499	2,961	836	799	1,635

実施単位数



VI 薬局取扱い数

	平成30年度			令和1年度			令和2年度		
	外来	入院	合計	外来	入院	合計	外来	入院	合計
処方箋枚数	1,638	18,949	20,587	1,600	20,949	22,549	1,199	20,300	21,499
処方数	1,846	28,907	30,753	1,878	33,326	35,204	1,230	33,463	34,693
剤数	10,715	218,063	228,778	9,991	254,631	264,622	6,070	260,820	266,890
注射払出数	3,466	39,048	42,514	3,903	39,236	43,139	3,526	38,755	42,281
薬剤管理 指導件数	4,266			3,289			3,296		
化学療法 ミキシング	624	211		618	144		692	117	



外来部門では、処方箋枚数（-25%）・処方数（-34.5%）・剤数（-39.2%）であり、入院部門は、処方箋枚数（-3.1%）、処方数（0.4%増）、剤数（2.4%増）である。外来部門ではCOVID-19の影響による受診控えと推測される。入院部門については昨年並の推移である。

薬剤管理指導業3,296件で前半期の薬剤師の欠員が影響している。

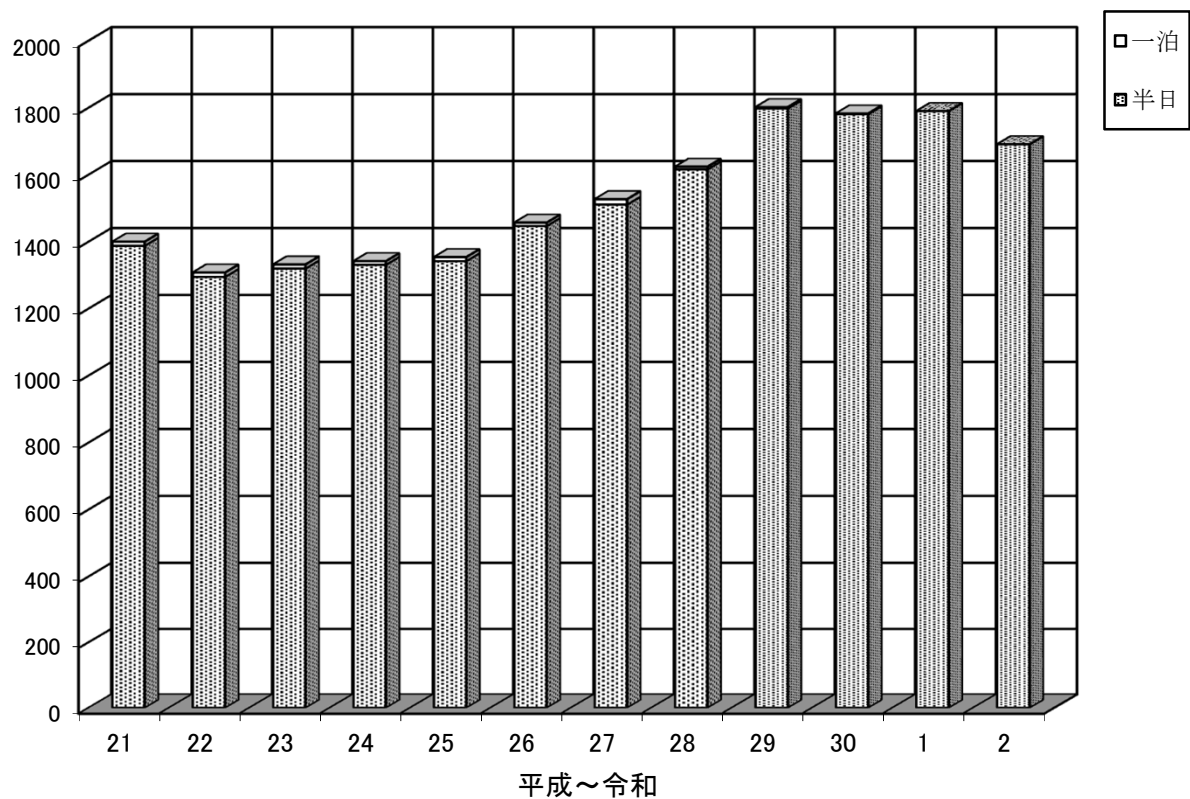
化学療法のミキシングについては、外来部門での施行が定着している。

薬剤科長 西久保 龍男

Ⅶ 人間ドックの利用者数

			半 日	一 泊	計
平成	21	年度	1,388	12	1,400
	22	年度	1,295	13	1,308
	23	年度	1,320	12	1,332
	24	年度	1,331	11	1,342
	25	年度	1,342	12	1,354
	26	年度	1,447	10	1,457
	27	年度	1,511	16	1,527
	28	年度	1,616	8	1,624
	29	年度	1,798	4	1,802
令和	30	年度	1,781	2	1,783
	1	年度	1,790	0	1,790
	2	年度	1,691	0	1,691

(人) 人間ドック利用者数



VIII 栄養管理

1. 入院患食種別実施

	2019年度 給食延人員	2020年度 給食延人員	備 考
常食	10,939	11,419	常食A
軟食	15,796	15,934	常食1/2・軟食・軟食1/2・キザミ・キザミ1/2・ミキサー・ミキサー1/2・臥床食・サッパリ食・梅干食・おかずなし・朝パン食・検査後食・嚥下訓練食
分粥・流動	903	538	五分食・三分食・流動食・術後流動食(5回食)・検査後流動食・濃厚流動食
エネルギー制限食	2,933	2,351	エネルギー制限A・エネルギー制限B
塩分制限食	7,876	6,960	塩分制限A・塩分制限B・シンカテ食・制限キザミ・制限ミキサー
脂肪制限食	164	131	脂肪制限A・脂肪制限B・脂肪制限C
その他(治療食)	3,765	2,495	消化三分食・消化食・術後三分食(5回食)・術後食(5回食)・蛋白制限(30g・40g・50g)・特別食 I (貧血食)・コロノクリーン食
合計	42,376	39,828	

検食	806	799	
----	-----	-----	--

栄養指導件数

種 目		入院患者栄養指導件数				外来患者栄養指導件数			
		2019年		2020年		2019年		2020年	
		個人指導	集団指導	個人指導	集団指導	個人指導	集団指導	個人指導	集団指導
		人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数
1	糖尿病	22	31	19	16	264	0	278	0
2	脂質異常症(脂肪制限含む)	1		6		132		134	
3	高血圧症・心臓病(腎臓疾患含む)	37		42		49		49	
4	その他	30		39		36		24	
合計(件数)		90	31	106	16	481	0	485	485

3. 栄養指導件数集計用紙(入院)

2020年度 入院栄養指導件数集計表												
種 目	4月		5月		6月		7月		8月		9月	
	個人	集団	個人	集団	個人	集団	個人	集団	個人	集団	個人	集団
1 糖尿病	2	0	1	0	2	0	1	0	2	1	1	2
2 脂質異常症(脂肪制限含む)	0		1		1		1		0		0	
3 高血圧症・心臓病(腎臓疾患含む)	2		4		4		4		3		2	
4 その他	2		4		4		4		3		2	
合計(人数)	6	0	10	0	11	0	10	0	8	1	5	2

種 目	10月		11月		12月		1月		2月		3月	
	個人	集団	個人	集団	個人	集団	個人	集団	個人	集団	個人	集団
1 糖尿病	2	5	2	3	2	3	1	2	1	0	2	0
2 脂質異常症(脂肪制限含む)	0		1		0		0		1		1	
3 高血圧症・心臓病(腎臓疾患含む)	4		4		4		2		4		5	
4 その他	3		4		3		2		4		4	
合計(人数)	9	5	11	3	9	3	5	2	10	0	12	0

種 目	4月～翌3月までの合計	
	個人	集団
1 糖尿病	19	16
2 脂質異常症(脂肪制限含む)	6	
3 高血圧症・心臓病(腎臓疾患含む)	42	
4 その他	39	
合計(人数)	106	16

4. 栄養指導件数集計用紙(外来)

2020年度 外来栄養指導件数集計表												
種 目	4月		5月		6月		7月		8月		9月	
	個人	集団	個人	集団	個人	集団	個人	集団	個人	集団	個人	集団
1 糖尿病	16	0	13	0	24	0	27	0	20	0	35	0
2 脂質異常症(脂肪制限含む)	8		6		11		13		10		17	
3 高血圧症・心臓病(腎臓疾患含む)	3		2		4		5		4		6	
4 その他	2		2		2		2		2		2	
合計(人数)	29	0	23	0	41	0	47	0	36	0	60	0

種 目	10月		11月		12月		1月		2月		3月	
	個人	集団	個人	集団	個人	集団	個人	集団	個人	集団	個人	集団
1 糖尿病	32	0	30	0	25	0	19	0	14	0	23	0
2 脂質異常症(脂肪制限含む)	16		14		12		9		7		11	
3 高血圧症・心臓病(腎臓疾患含む)	6		5		4		3		3		4	
4 その他	2		2		2		2		2		2	
合計(人数)	56	0	51	0	43	0	33	0	26	0	40	0

種 目	4月～翌3月までの合計	
	個人	集団
1 糖尿病	278	0
2 脂質異常症(脂肪制限含む)	134	
3 高血圧症・心臓病(腎臓疾患含む)	49	
4 その他	24	
合計(人数)	485	0

2020年度 食数集計表

													(2020年4月～ 2021年3月)	(2020年4月～ 2021年3月)
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	給食延数	給食人員数
1 常菜	2,719	2,057	2,812	2,610	2,416	3,104	3,085	3,358	3,413	3,008	2,819	2,857	34,258	11,419
2 軟菜	2,915	3,276	3,805	3,805	4,391	4,165	4,064	4,462	4,384	4,409	3,819	4,307	47,802	15,934
3 分粥・流動	166	181	159	208	230	92	71	90	174	105	28	110	1,614	538
4 エネルギー制限食	809	630	301	739	580	425	755	683	588	379	507	657	7,053	2,351
5 塩分制限食	1,319	2,020	1,783	1,629	2,156	1,929	1,732	1,517	1,724	1,821	1,697	1,553	20,880	6,960
6 脂肪制限食	0	10	3	160	30	61	81	21	23	0	3	0	392	131
7 その他	718	619	517	582	616	485	564	853	548	466	533	983	7,484	2,495
合計	8,646	8,793	9,380	9,733	10,419	10,261	10,352	10,984	10,854	10,188	9,406	10,467	119,483	39,828

欠食	1,840	1,731	1,750	1,766	1,804	1,721	1,891	1,860	2,008	2,126	1,789	1,593	21,879	7,293
----	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	--------	-------

検食その他	189	201	200	205	205	198	205	197	204	203	184	206	2,397	799
-------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-------	-----

2020年度 チーム医療 前年度比較

特定保健指導件数

2019年度 合計件数	2020年度 合計件数
1件	103件

糖尿病透析予防管理指導件数

2019年度 合計件数	2020年度 合計件数
0件	0件

NST介入件数

2019年度 合計件数	2020年度 合計件数
703件	581件

2020年度 栄養科 総評

・食数について

2020年度は前年度と比較し、給食延べ数が6%減となった。特に、分粥食や治療食であるエネルギー制限・塩分制限が減少している。治療食は、病状や栄養状態の改善に繋がる役割を果たしている。食事は主治医の指示によるオーダーではあるが、主治医・看護師・管理栄養士・言語聴覚士等、他職種と連携して、患者様の状態に合った食事の提案を積極的に行っていきたい。

また、治療食は入院中だけでなく、退院後の食生活改善の手本となる食事である。管理栄養士は、治療食であっても美味しく感じられる工夫を凝らした献立を立て、調理師は、調味料や主食等の計量を正確に行うなど、基本的な給食管理を徹底していく。調理作業員の欠員は相変わらず継続しているため、2021年度は業務内容の見直しを図り、庶務課と連携し早急な人員確保に努めていく。

・栄養指導について

2020年度は前年度と比較し、入院の栄養指導が18%増となった。治療食が前年度と比べ減っているにも関わらず、栄養指導が増えたのは、医師の栄養指導に対する認識が高くなったことが考えられる。しかし、栄養指導を依頼される医師は偏っているのが現状であり、一度も栄養指導の依頼をしたことがなく、依頼方法もご存じない医師も少なくない。栄養指導は、治療食を召し上がっている患者様であれば、全員対象となる。栄養指導の依頼方法を周知していき、栄養指導を依頼しやすい環境の整備を図る。管理栄養士も医師の方に必要とされるよう、栄養指導の技術向上に邁進していく。

・チーム医療について

2020年度のNSTの介入件数は、前年度と比較し17%減となった。前年度は特に介入件数が多かったため、比較すると減少に転じた。今後も主治医・看護師等、NSTへの認識と理解度を高めていき、患者様の栄養改善に繋がるよう、活動を継続していく。特定保健指導は前年度1件に対し、今年度は103件と大幅に増加した。これは2020年度より国の特定保健指導のシステムが変更となり、医師の結果説明時に栄養士の初回支援を行うようになったためである。今後も外来と連携しスムーズに初回支援に繋げ、特定健康診査を受けた患者様の生活改善にお役立ていただけるよう努める。

IX 臨床工学科

- 令和2年度を振り返って
業務内容は従来と変わってはいない。
- 令和2年度業務報告
令和2年度の臨床工学科の各業務内容について実施件数の報告を以下に行う。
※()内は昨年度の件数

1)	心臓カテーテル関係				
	心臓カテーテル検査 (ア)	右心系	19件 (9件)	左心系	184件 (208件)
				内 緊急	30件 (20件)
	経皮的冠動脈形成術 (イ)		64件 (57件)	内 薬物溶出ステント	56件 (48件)
	電気生理検査		56件 (64件)	内 心室頻拍に関するもの	1件 (0件)
	カテーテル心筋焼灼術				56件 (64件)
	内 カテーテル心筋焼灼術(PVI) (ウ)	件数は上記に含まれるものの再掲			※ 41件 (47件)
	中隔穿刺を伴う				
	ペースメーカー植込み術 (エ)		34件 (21件)	体外式	3件 (0件)
				外来フォロー	354件 (341件)
	血管内超音波(IVUS) (オ)				55件 (40件)
	大動脈バルーンパンピング (IABP)				0件 (0件)
	経皮的心肺補助(PCPS)				0件 (0件)
	下大静脈フィルター (カ)				2件 (1件)
	経皮的血管形成術(PTA)				13件 (19件)
	気管支動脈塞栓術				0件 (3件)
	冠血流予備量比(FFR)				16件 (3件)

- (ア)心臓カテーテル検査 件数は左心系が昨年度より減少した。
緊急カテの件数は増加した。
- (イ)経皮的冠動脈形成術 (PCI) 件数は昨年より増加した。依然薬物溶出ステントの割合が多くなっている(再狭窄予防効果が高いため再手術の件数が減っている)。
- (ウ)カテーテル心筋焼灼術 ※ 心房細動の治療のためのもので、件数は同程度で推移している。
(中隔穿刺を伴うもの)
- (エ)ペースメーカー植込み術 外来フォローの件数が増えており、月4回に変更して対応している。
- (オ)血管内超音波(IVUS) PCI時の冠動脈の径や性状の確認ために可能であれば超音波で確認をしている。
- (カ) IVCフィルター 深部静脈血栓症の肺梗塞予防のための手技で昨年度より増加した。

2)	心臓血管外科	冠動脈バイパス術	人工弁置換術	その他	合計
	人工心肺使用	0 件 (0 件)	0 件 (0 件)	0 件 (0 件)	0 件
	人工心肺不使用(off-pump)	0 件 (0 件)			0 件
	人工血管置換			0 件 (0 件)	0 件

※() 内は昨年度の件数

3)	自己血回収	昨年度	今年度
		46件	49件

昨年度とほぼ同数の実施数になった。

4)	血液浄化	昨年度	今年度
	血液透析	96件	7件
	持続式緩徐式血液濾過透析	6件	3件
	血液吸着療法	2件	0件
	血漿交換療法	0件	0件
	ブラッドアクセス挿入	4件	0件

血液透析(HD)

当院では維持透析は行わないため、他院よりの入院患者数により件数の変動がある。

持続式緩徐式血液濾過透析(CHDF)

持続式緩徐式血液濾過透析(CHDF)に関しては低心機能の腎不全や手術後の腎不全、さらには慢性膵炎や肝不全といった様々な病態において行われる治療法で当科の重要な業務である。件数も同じぐらいの数で毎年推移している。今後も積極的に情報収集や研修をし、臨床の場に還元して行きたい。

血液吸着療法

血液吸着療法に関しては全例PMX(エンドトキシン吸着)である。

3. まとめ

当科の業務は複雑多岐にわたり、すべてが直接患者の生命に影響するものである。引き続き安全や事故防止に配慮しつつ、技術の向上や知識の習得を重ねていきたい。今後も高度な治療が継続できるよう学会への参加や研修を行う等の努力を継続していきたいと考える。

臨床工学科 科長代理 大島 康彦

X 地域医療連携

1. 医療相談報告

1) 取り扱いケース総数 21,450件（新規1,387件）

2) ケース開始契機

紹介ケース（件）	自発来談ケース（件）	その他のケース（件）
医師 1,991	患者本人 1,762	その他 1,297
看護師 4,853	患者家族 2,974	
関係機関 8,573		合計 21,450 件

3) ケース主訴・援助内容

区 分（件）	区 分（件）	区 分（件）
受診援助 1,351	経済上の援助 455	日常問題援助 121
入院援助 1,435	就労問題援助 0	心理・情緒的援助 141
退院援助 14,815	住宅問題援助 0	人権擁護 633
療養上の問題調整 2,453	家族問題援助 46	教育問題援助 0
合計 21,450 件		

4) 方法別相談援助

面 接	電 話	訪 問	文 書	計
8,213	11,885	90	1,262	21,450

2020年度 東村山医師会症例検討会は、新型コロナウイルスのため未開催。

XI 新山手訪問看護ステーション

前年度との比較で、訪問件数、利用者数ともに横ばいの状態であった。
がん疾患利用者数が増えて、在宅看取り数が増えた。
今後も、訪問看護を通して、利用者の在宅療養を支え、地域貢献していきたい。

訪問看護実績

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
訪問件数	令和元年度	254	265	296	325	323	313	299	305	306	280	260	288	3,514
	令和2年度	296	268	298	283	244	278	302	268	297	283	290	337	3,444
利用者数	令和元年度	62	67	70	72	72	71	72	70	73	71	68	68	836
	令和2年度	68	68	67	67	66	71	69	69	73	72	74	71	835

主傷病名別新規人数

単位(人)

癌	19
心疾患	11
呼吸器疾患	14
糖尿病	3
認知症	5
筋骨格系	3
その他	2

訪問地域(令和2年3月現在)単位(人)

東村山市	65
所沢市	2
東大和市	2
東久留米市	1
清瀬市	0
小平市	1

現在の利用者状況 (令和2年3月現在)単位(人)

医療保険	11
要支援 1	3
要支援 2	9
要介護 1	25
要介護 2	10
要介護 3	6
要介護 4	7
要介護 5	0

終了者状況 単位(人)

病院看取り	8
在宅看取り	15
入所	10
軽快	2
その他	2

新山手訪問看護ステーション 管理者 田邊陽子

X II 看護部の活動

2020 年度診療報酬改定の対応に迫られると同時に未曾有のコロナ禍を経験し、蔓延に立ち向かうことを余儀なくされた。医療を取り巻く経済環境は厳しく医療現場では今までにない影響を受けた。看護体制、ハード面の整備、感染患者の対応、勤務職員の精神サポート、診療材料の不足等数々の課題に直面した年であった。そのような中、病院・看護部の方針に基づき、看護の質向上を念頭に重点課題を掲げ、目標達成を目指して活動を行った。

診療報酬改定に伴い重症度、医療・看護必要度は 3 か月平均 30%以上が基準となるが年間平均値は 36.3%、平均在院日数は 15.1 日と昨年とより 2 日短縮され急性期一般入院料 1 の看護体制を維持した。

看護師人員確保については看護師新採用者 18 名に対し退職者 12 名となり、看護師離職率は 6.8%（昨年度 6.6%横ばいで推移）であった。潜在看護師確保対策として短時間正職員制度を正式に 8 月から導入し 1 名の利用者があった。この制度を活用した新入職者の採用には繋がらず、今後のアピールが必要となる。新卒者については、大手看護師入職サイトへの掲載と就職説明会へのブース展示を行った成果としてインターンシップ参加者が増加し、次年度新卒入職者の増加につながった。

人材育成における教育においては、JNA（日本看護協会）クリニカルラダーを取り入れ各段階に応じた目標設定に沿った研修を開催した。ラダーⅡ対象者 136 人中 15 人が認定取得申請された。今年度は感染拡大に伴い学会・研修の延期中止、よってオンライン研修による開催が行われるようになった。看護部主催の集合研修はオンデマンド研修とし自己学習形式となった。オンデマンド研修により自主的に取り組めるような学習ができることになった。結果的に 80%の看護師が参加する結果となった。専門性の向上については、新たな認定看護師の採用や今後他の分野に拡大していけるような働きかけが望まれる。

感染拡大に伴い発熱外来受診の対応、感染患者の受け入れ、院内通知・情報一元化、面会制限、環境整備、看護師の配置、個人防護体制、次々とスピーディーな意思決定とリーダーシップを求められた。さらに看護学生の実習も感染対策を考慮した結果受け入れ中止を余儀なくされた。衛生材料の不足もあり手作りする場面もあった。限られた資源（時間、人、もの、技術）を効率的に使い従来のやり方にこだわらず、独自性を追求しながら進むしかなかった。患者だけでなく経営にも大きく影響を及ぼした。看護部院外活動として、例年実施される 6 月に菖蒲園まつり、11 月に東村山産業まつりも感染拡大に伴いすべて中止となった。「ウイズコロナ」時代となりどのように看護師として関わっていくか、備えていくか、経験したことから見えた課題にウイズコロナ時代を生き抜いていくか考える。

看護部長 堀金千秋

【2020 年度 看護部委員会活動報告】

【教育委員会】

新型コロナ感染拡大により、院内感染予防対策として職員を参集して行う集合研修がすべて中止となった。

今年度計画していた研修のほとんどが集合研修であり、中止を余儀なくされたことでラダー対象研修を受講できないスタッフも出た。

院外の研修も軒並み中止。その後は徐々に zoom 等を活用したオンライン研修に移行しつつある。

2018 年度より導入した新山手病院看護部クリニカルラダーシステムの初回満期が 2020 年度であったため、駆け込み申請も含めて 16 名の看護師がラダーⅡを取得した。研修が中止になり課題がクリアできなかった一部のスタッフへの特別措置として、申請期限を 1 年間延長することとした。

またラダー対象の集合研修が実施できないため、今年度はナーシングスキルの動画講義を重点に課題を進めてもらうこととした。

但し、毎年実施している『緩和ケア』『褥瘡ケア』については、講師の協力を得て動画を作成しナーシングスキルで配信。両動画ともに、充実した内容で仕上がり「自身の都合の良い時間」、「何度も閲覧できる」などと高評価を得た。

新型コロナの感染が落ち着くまでは、当面集合研修が実施できないため当院の研修のあり方も今後検討していかなければならない。

【新人看護職員研修】

2020 年度は手術室へ 1 人の新人職員の採用があった。看護部として基本的なオリエンテーションを行った後は、所属部署において手術室新人教育指導計画に基づいて教育を行った。また、新人職員研修ガイドラインの到達目標に沿い、1 年目に身に着けたい看護技術に関してはナーシングスキル動画講義での学習と急性期病棟で技術習得ができるよう企画している。手術室という特殊な環境での新人教育であり、同期もいないことから所属部署での手厚い教育をお願いした。

【実習担当者会】

コロナ禍において看護実習生の受け入れについては慎重にならざるを得なくなった。所沢看護専門学校からの強い要望もあり、幾度と方法や時期を検討してきたが、患者・職員・学生それぞれの感染予防と安全を考慮して、今年度は受け入れを行わないと判断した。来年度以降について、実習指導担当者の退職や異動に伴うマンパワー不足、実習環境の整備に課題があるため全体が整うまでは受け入れを行わないこととなった。

【静脈注射院内資格認定委員会】

新山手病院『静脈注射マニュアル』に基づき、知識・技術を習得して、安全に実施できることを目標に、対象者にナースングスキルの学習と実技テストを実施した。

今年度は、新人看護師 1 名であったため、配属部署に教育・指導・認定テストを行ってもらった。中途採用者についても、各病棟で認定テストを実施してもらった。今後は、認定制度を導入して 3 年以上になるので、研修内容など再検討を行っていきたいと考えている。

【医療情報システム検討看護部会】

今年度、医療情報システム検討看護部会では、

- ・「入院時チェックリスト」「退院時チェックリスト」の改定
- ・システム障害時の対策の見直し、再度マニュアルの周知徹底

を行った。

現在、「コスト連携」「新スキャナーシステムの導入」について作業を進めているため、次年度も引き続き作業を行い、決定事項の周知を行っていく予定。

今後も、電子カルテ実務上の問題点等を情報共有し、改善していきたい。

【看護必要度委員会】

2020 年度は診療報酬改定に伴う必要度評価基準が変更された。変更点周知のためにパワーポイントデータで研修資料を作成し、各部署で資料再生閲覧・理解度テストを実施した。年度末には 2 回目の研修として紙媒体資料での学習と基準や評価についてテストを実施し、不正解が多い基準や定義の再学習を各部署でフィードバックを行った。監査は昨年度と方法を変更し月 2 回入院患者全員分を実施した。監査を通して各部署の傾向が明確になり、部署全体だけでなく個別にもフィードバックを実施した。当院の届出方法の変更や診療報酬改定に伴い根拠となる記録が不要になるなど看護職員の負担は軽減したが、必要度の評価者として適切な評価が実施出来るように学習の継続は必要である。今後も基準や定義の再学習が出来るような学習計画を計画・実施していく。

【記録委員会】

コロナの影響で委員会の集合開催は 7 月からとなった。今年度の活動として記録の監査を行った。毎月、各病棟で 2 週間以上入院されている患者 1 名を対象に形式的と質的監査を実施した。各病棟からは形式的では必要事項の記入漏れがあることが多く聞かれた。質的では # 毎の記録がされていない、や看護評価がされていないなどがあつた。看護記録は患者ケア、看護実践が適切に行われているかの指標となるので、定期的に監査が必要である。また、看護師として一人一人が記録基準を遵守すること重要である。

【認知症看護検討ワーキング】

コロナの影響でワーキングメンバーが集合開催は 8 月であった。加算対象であるため研修開催について協議をしたが、集合研修は感染予防の観点から断念した。代替の研修として認知症看護のナーシングスキル動画閲覧とテスト 100 点の取得を課題とした。2021 年 3 月 31 日末で 80%以上の看護師が受講された。2021 年 3 月よりせん妄ケア加算を導入した。来年度は認知症看護とせん妄ケア看護について活動を行う。

令和2年度 院外研修学会参加記録(看護部)

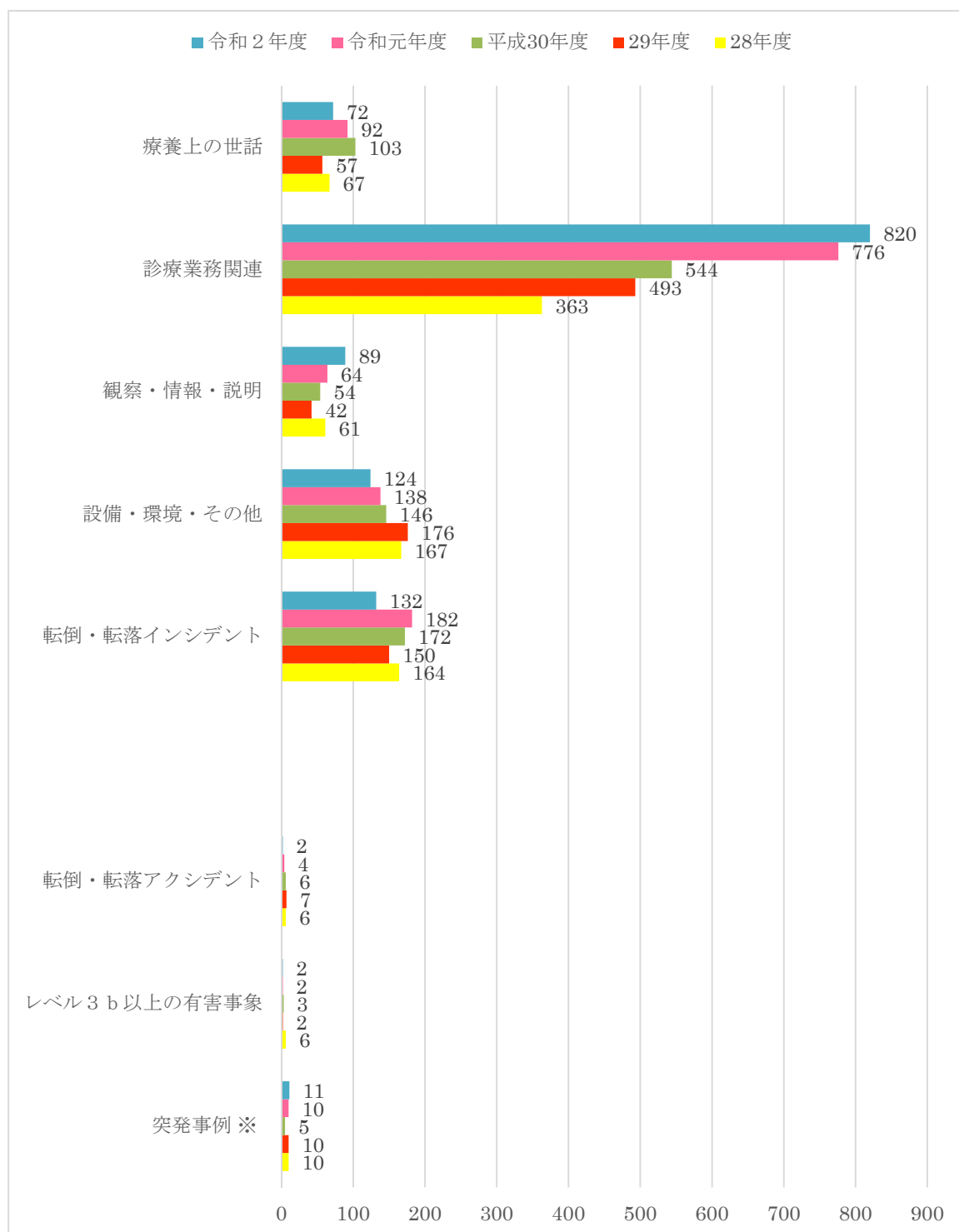
期日	研修名	主催
5/31	第20回日本核医学会 春季大会	日本核医学会
8/7	保健師・看護師等基礎実践コース	結核研究会
8/31	「重症度・医療。看護必要度」評価者及び 院内指導者研修	日本臨床看護マネジメント学会
9/5	退院支援	国家公務員共済連合組合 立川病院
9/9	終焉を迎えた患者・家族への支援と看護職のケア	公益財団法人東京都看護協会
10/16	認定看護管理者教育課程「サードレベル」	公益財団法人東京都看護協会
10/23	2020年度新人看護職員3日間研修	公益財団法人東京都看護協会
10/30	令和2年度保険看護学科保健師等基礎実践コース	結核研究会
11/13	令和2年度 最新情報集中コース	公益財団法人 結核予防会結核研究所
11/18	認定看護管理者「ファーストレベル第2回」	東京都看護協会
11/20	ハート先生の心電図セミナー初級編	医学同人社
12/11	保健師・看護師等基礎実践コース	結核研究会
2/27	第35回日本がん看護学会学術集会	日本がん看護学会

XⅢ 令和2年度 死因別死亡例

死因病名	人数	死因病名	人数
肺結核	3	心不全	5
敗血症	2	小脳出血	1
MRSA感染症	1	肺炎桿菌肺炎	1
胃癌	6	肺炎	2
結腸癌・大腸癌	2	急性肺炎	3
直腸癌	2	慢性閉塞性肺疾患	1
肝細胞癌	1	気管支喘息	1
胆のう癌、胆管癌	4	誤嚥性肺炎	12
膵癌	2	特発性肺線維症	1
肺癌	19	特発性間質性肺炎	2
膠芽腫	1	非特異性間質性肺炎	1
癌性胸膜炎	1	通常型間質性肺炎	1
髄膜癌腫症	1	特発性器質化肺炎	1
癌性リンパ管症	1	間質性肺炎	9
原発不明癌	1	肺化膿症	1
悪性リンパ腫	2	膿胸	1
腎盂腫瘍	1	慢性呼吸不全	6
血球貪食症候群	1	急性腸間膜動脈閉塞症	1
免疫不全	1	S状結腸軸捻転	1
低血糖	1	イレウス	2
脱水症	1	胆石性急性胆のう炎	1
ハンチントン病	1	下肢蜂巣炎	1
低酸素性脳症	1	ANCA関連血管炎	1
高血圧性心不全	1	急性腎盂腎炎	1
急性心筋梗塞	3	急性腎不全	2
肺塞栓症	1	尿路感染症	1
大動脈弁狭窄症	1	嚥下障害	1
心筋症	2	出血性ショック	2
心停止	3	多臓器不全	1
心房細動	1	急性硬膜下血腫	1
うっ血性心不全	6	上腕骨骨折	2
心原性肺水腫	1	大腿骨転子部骨折	2
合計 144 人			

XIV 安全管理室

○令和２年度 インシデント・有害事象報告件数 全部署合計 1252 件



※医療事故ではないが報告すべき重要な事例、または安全管理室に報告するか現場で迷う事例など、「突発事例」として報告することを促している

インシデント報告の件数は安全意識の高さの目安となる。全部署合計のインシデント・有害事象報告件数は、平成 28 年度 844 件、29 年度 938 件、30 年度 1033 件、令和元年度 1268 件、令和 2 年度は 1252 件であった。

○医療安全研修会（全職員対象）

新型コロナ感染予防対策のため集合研修は行わず、テーマごとの資料を配布、受講用紙（問題形式）を提出する方法で実施した。

		テーマ	受講率
第 1 回	2020 年 9 月	「5S について」 「医療ガス安全講習」 「医薬品管理講習：持参薬について」	98.7%
第 2 回	2021 年 2 月	「クレーム対応について」 「医療機器安全講習：超音波検査について」 「個人情報の取扱いについて」	99.2%

○医療安全管理委員会（毎月最終週の火曜日開催）

医療安全管理委員会では、レベル 3b 以上の有害事象・転倒アクシデント事例に関する検討、医療安全管理指針・院内統一の医療安全に関わるマニュアルの見直し等を行っている。

令和 2 年度は、「院内暴力発生時の対応と報告経路」の見直しを行った。

○医療安全推進者会議（毎月第 1 金曜日開催）

月 1 回の会議のほかに、各部署の医療安全推進者でグループを組み、医療安全ラウンドを行っている。医療安全ファイルの内容について、スタッフへの周知状況を把握するため、患者確認時の識別子・医療安全の 4 本柱を答えてもらう質問形式でのラウンドを実施した。

○安全管理室カンファレンス（毎週火曜日開催）

安全管理室長（副院長）・事務部長・看護部長・医薬品安全管理責任者（薬剤科長）・医療安全管理者で、毎週カンファレンスを行っている。

また、カンファレンスのメンバーによる安全管理ラウンドでは、主に注射薬の管理状況を把握するため、各部署のラウンドを実施した。

安全管理室長・丸山正二
医療安全管理者・齊藤八重

XV 感染対策室

感染対策委員会(ICC:Infection Control Committee)

毎月第 1 金曜日に開催している感染対策委員会(ICC)は、病院長の諮問機関である。感染対策の日常活動などについては、ICTが権限を有しているが、活動を把握し、その評価を行い必要に応じて助言を行っている。

主な目的は、当院における患者および職員等の院内感染の発生を防止する事であり、対策を講じ環境保全と安全衛生を確保するために、感染症患者への対応などの基本的事項を審議している。また、感染対策上重要な事項につき、広く院内各部署に周知徹底している。

感染制御チーム(ICT:Infection Control Team)

院内感染対策における実働組織である。チームの主な活動目的は、院内における患者・面会者・職員など病院にいるすべての方が感染症に罹患してしまうこと、病原微生物に曝露される事を予防する事である。感染が発生した場合には、速やかに最善の対策を実施する。

また、エビデンスに基づいた科学的かつ合理的な、しかも環境に配慮した感染対策を実施し、関連学会や研究班などの指針と整合性を保つことを目指す。

活動内容

- 1 院内感染対策上重要な事柄については、ICC に報告し、意見を求める。
- 2 院内における微生物の検出状況、耐性状況を常時把握する。
- 3 耐性菌の出現抑制を考慮した、抗菌薬の適正使用を図る。
- 4 各部署のラウンドを行い、感染対策の徹底を図り、必要な改善策を実施する。
- 5 医療器材・設備・施設などを適宜検討し、必要に応じて導入を検討する。
- 6 普段から職員の免疫状態の維持に努め、病原体曝露事故が起きた場合には、発症予防のため迅速に適切な対応を行なう。
- 7 異常な感染症の発生が疑われるときには、速やかに状況を把握し、原因究明を行い、収拾に務めるとともに、将来のための改善策を立案・実施する。
- 8 院内感染対策マニュアルの作成・見直し・改訂を行なう。
- 9 職員を対象とした感染対策講習会を企画・実施する。
- 10 院内感染の発生状況、耐性菌の状況などにつき、外部の医療機関と情報交換を行なう。

ICT リンクスタッフ委員会

ICT リンクスタッフ委員会では、検査科による特殊病原体や耐性菌の検出状況、薬剤科による抗菌薬使用状況、各部署における感染予防策に関する問題点などの報告を受け、状況の適切な把握とその改善に努める。

また、毎週 1 回程度ICT及びリンクスタッフが、院内各部署のラウンドを行い現場での感染対策実施状況を詳細に調査し、それらの評価および指導を行う。特記事項があれば、ICCおよびICTリンクスタッフ委員会に報告する。

感染対策研修会(全職員対象):2021 年度

	開催日	演題名	出席率 (未受講者フォロー 後)	講師
第1回	10 月	「手指衛生」	90.2%	資料作成 CNIC 清水
第2回	2月 予定	「ICT が感染対策の視点で見た 院内の現状」	未開催	資料作成 CNIC 清水

感染対策に関する院内教育:2021 年度

開催日	講習内容	対象者	講師
4 月	新規採用者オリエンテーション ・感染管理体制について ・感染予防の基本	新入職員(全職種)	CNIC 清水
12 月	手指衛生 レクチャー	各部署	CNIC 清水
適宜	新型コロナウイルス感染症を想定し た個人防護具の着脱訓練	外来・病棟看護師	ICD 奥田 CNIC 清水

抗菌薬適正使用支援チーム(Antimicrobial Stewardship Team:AST)

ICT メンバーが兼任として、本チームが組織された。抗菌薬の不適切な使用や長期間の投与が、薬剤耐性微生物を発生あるいは蔓延させる原因となりうるため、その対策として患者さんへの抗菌薬の使用を適切に管理・支援するための実働部隊である。

これまで、ICT の医師、薬剤師、検査技師を中心に抗菌薬の適正使用について活動を行っていたが、今年度より抗菌薬適正使用支援加算を算定し活動を本格化した。

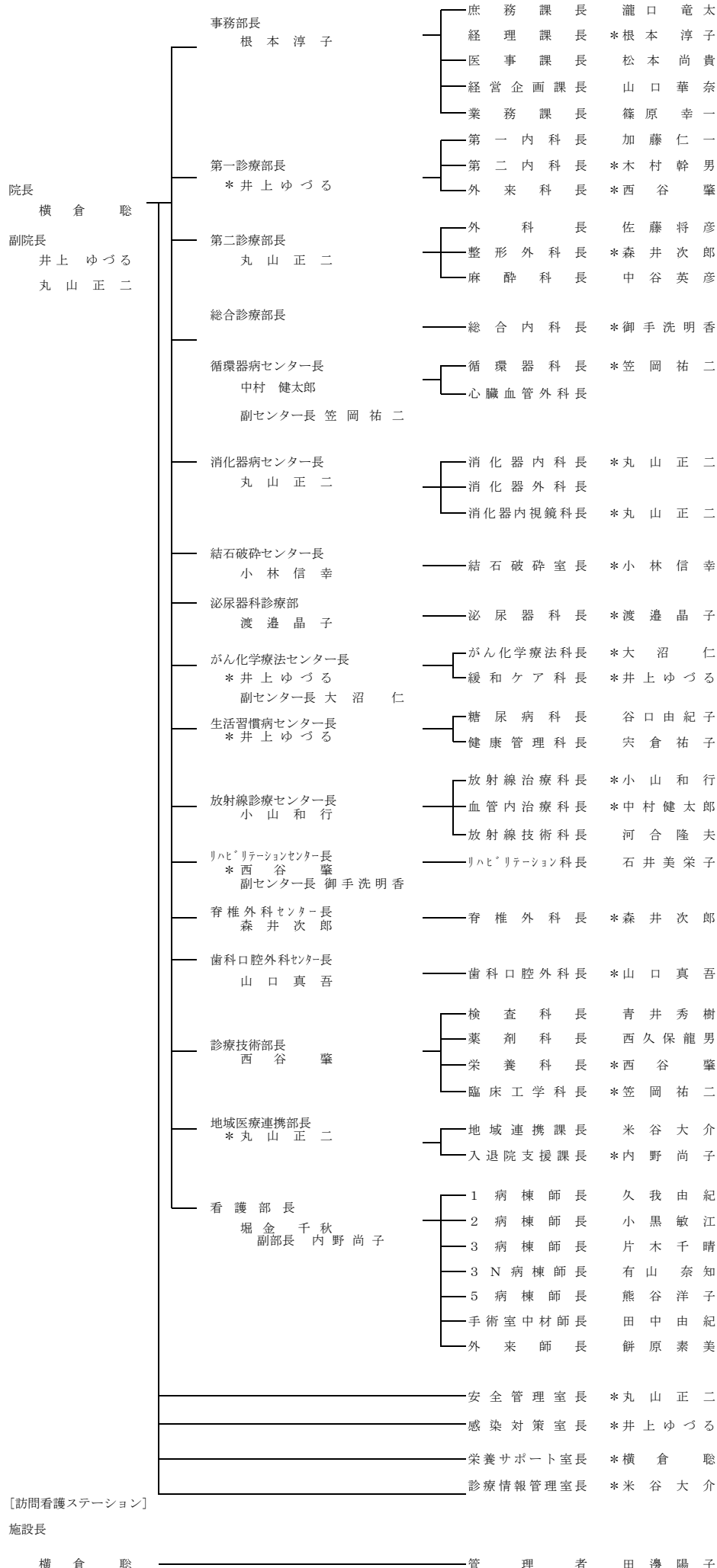
感染対策室
室長代理 清水 昇一

XVI 病院の組織と構成

2021年3月31日現在

1. 組織図

*は兼務



２．職種別人員表

令和3年3月31日時点

	常 勤	非常勤	合 計
医師	19	58	77
薬剤師	6	3	9
放射線技師	11	0	11
臨床検査技師	10	5	15
理学療法士	14	0	14
管理栄養士	4	1	5
歯科衛生士	2	1	3
医学補助員	0	1	1
研究員他	0	4	4
臨床工学技士	3	0	3
作業療法士	4	1	5
言語聴覚士	2	0	2
臨床心理士	1	1	2
社会福祉士	4	0	4
医療情報技師	1	0	1
診療情報管理士	0	0	0
救急救命士	0	0	0
看護員	139	32	171
事務員	16	57	73
看護助手	21	9	30
汽缶士	2	2	4
調理師	4	0	4
作業手	0	12	12
保育士	0	6	6
歯科助手	0	1	1
調理助手	0	4	4
合 計	263	198	461

３．病棟別定床数

令和3年3月31日時点

病 棟	ベッド数	診療科目
1	44	一般内科、歯科口腔外科、泌尿器科、地域包括ケア
2	42	消化器科、消化器外科、呼吸器外科、整形外科
3	40	呼吸器科
3N	16	回復期リハビリテーション
5	38	循環器科、心臓血管外科
合 計	180	

4. 入院及び外来等担当医師

令和3年3月31日現在

<呼吸器内科>

井上 ゆづる 大沼 仁 加藤 仁一 奥田 達也

<胸部外科・外科>

高橋 佳奈 渥實 潤

<消化器内科>

中泉 明彦

<消化器外科・外科>

丸山 正二 佐藤 将彦 田代 浄 清水 浩
黒山 信一 生形 之男 清水 浩 中浦 寛
中沢 祥子

<整形外科>

横倉 聡 森井 次郎 増田 理亜子 岩増 弘志
横田 直正 福井 尚志 藤巻 亮二 伊藤 順一
武井 聖良 山下 太郎 小林 紘樹

<循環器科>

中村 健太郎 笠岡 祐二 御手洗 明香 山田 朋幸
中川 貴史 阿部 敦子 田村 俊一

<内科>

木村 幹男 西谷 肇 武市 瑛子

<生活習慣病・糖尿外来>

谷口 由紀子 関口 芳弘 保川 信行

<泌尿器科>

小林 信幸 渡邊 晶子 近藤 由紀子

<リハビリテーション科>

上田 恵介

<麻酔科>

中谷 英彦 宗友 あゆみ

<皮膚科>

山下 裕子

<心療内科・神経内科>

上野 豪志 関 清之

<眼科>

志和 利彦 長谷川 瞳 小林 恵理

<脳神経外科>

大谷 直樹

<放射線科>

小山 和行 横山 健一 原 美佐子 今井 昌康
渡邊 正中 増川 愛 平石 卓也 沈 金花

<歯科口腔外科>

山口 真吾 伊澤 優一 鎌谷 宇明 堅田 凌悟
筑田 洵一郎

<健康管理科>

宍倉 祐子 宮本 洋寿 清水 浩

XVII 介護老人保健施設「保生の森」運営の概要

令和2年度は、経営環境は依然として厳しい状況の中、新型コロナウイルスの感染症拡大に伴う2度の緊急事態宣言が発出された。そのため、入所・短期入所・通所の利用者の自粛等があり、収支が圧迫した。そのような中でも、感染防止策を徹底し、当施設の目的でもある利用者の在宅復帰と、通所リハビリテーションの充実、家族の介護負担を軽減するための短期入所の利用率の向上を目指したが、維持ができなかった。経営状況については、利用者数が入所一日当り92.0人（前年度91.6人）、短期入所一日当り1.5人（前年度3.5人）、通所（予防通所含む）一日当り平均31.6人（前年度34.9人）となった。入所は前年度を上回ったが、短期入所、通所においては前年度を下回り、収支状況は、収益の確保ができなかった。

1. 利用者の状況

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
入 所	平 均 入 所 者 数	94.3	92.3	91.8	91.8	91.6	92.0
	平 均 年 齢	84.2	86.1	85.9	85.9	85.6	86.8
	平 均 介 護 度	2.87	2.87	2.87	2.87	2.81	2.79
短 期 入 所	平均短期入所者数	3.2	4.2	4.5	4.5	3.5	1.5
	平 均 年 齢	83.4	81.8	81.7	81.7	83.0	84.1
	平 均 介 護 度	2.64	2.89	2.77	2.77	2.86	2.83
通所リハビリ	平 均 通 所 者 数	34.9	36.0	31.9	31.9	30.2	27.2
	平 均 年 齢	80.7	81.9	82.1	82.1	84.6	84.8
	平 均 介 護 度	2.49	2.28	2.26	2.26	2.34	2.37
予 防 短 期	平均短期入所者数	-	-	-	-	-	-
	平 均 年 齢	-	-	-	-	-	-
	平 均 介 護 度	-	-	-	-	-	-
予防通所リハ	平 均 通 所 者 数	1.9	1.7	2.6	2.6	4.7	4.4
	平 均 年 齢	85.1	84.5	83.3	83.3	85.9	86.2
	平 均 介 護 度	1.85	1.84	1.65	1.65	1.68	1.72

2. 学会・研究発表会

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により学会や学術集会が中止となり、参加発表は行われなかった。

XVIII 居宅介護支援センター「保生の森」運営の概要

令和2年度は、利用者数の維持及びサービスの充実に引き続き努め、利用件数は前年度に比べ全体的に減少した。

今後も新山手病院、保生の森と密接に連携を取りながら、在宅部門における中心的な役割を果たせるよう取り組んでいく。

居宅利用者の状況

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
居 宅 サ ー ビ ス 計 画	839	934	1,096	1,275	1,310	1,214
認 定 調 査	115	108	40	24	37	31
相 談 件 数	7,793	7,248	7,343	7,756	7,221	6,457

XIX サービス付き高齢者住宅「グリーネスハイム新山手」運営の概要

グリーネスハイム新山手は、「サービス付き高齢者向け住宅」として、令和2年度は以下の施設運営を実施した。

入居者サービスについては、入居者同士、新山手病院及び保生の森との交流を深めるため、納涼会、新年会などの開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響で中止した。また、入居者の高齢化が進む中、今後も安心して安全な環境づくりを提供していくため、本部、新山手病院、保生の森及び入居者も参画し、生活向上運営委員会を引き続き定期的に開催していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により開催できなかった。しかし、各入居者から個々の意見を受け、より良い環境を提供できるよう努めた。集会室については、新山手病院及び保生の森の合同業績発表会や勉強会、研修会等のほか、地域交流の場として外部の方々にも開放し、利用されていたが、中止せざるを得なくなった。感染対策を徹底し、入居者による朝の体操と音楽鑑賞を実施した。

なお、令和2年度の平均入居契約件数は、前年度33.6件に対し34.3件であった。

入居者サービスにおいては、入居者同士、新山手病院および保生の森との交流を深めるため納涼会、忘年会、夕食会および意見交換会を開催し、健康相談も引き続き実施してきた。

また、生活向上運営委員会も引き続き開催し、入居者の安全や環境整備等について協議し、実施に向けて検討してきた。

集会室は、業績発表会、研修会および地域交流の場として提供し、利用件数は前年度を上回る217件となった。

入居の状況

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
契 約 者 数	34.0	34.5	35.8	34.1	33.6	34.3
集 会 室 利 用	192	178	195	233	217	0

保生の森 事務部長 伊豆田 弘